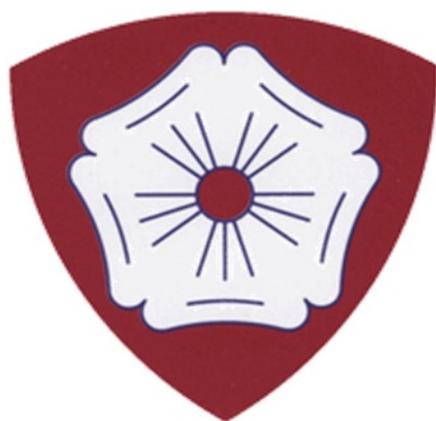


学校法人 九州ルーテル学院

2019(平成31・令和元)年度

# 事業報告書



自 2019(平成31)年4月 1日から  
至 2020(令和 2)年3月31日まで

# 目 次

## I. 学校法人の概要

1	建学の精神	1	ページ
2	学院の沿革	1	ページ
3	設置する学校・学部・学科等	2	ページ
4	学生・生徒・園児の状況	3	ページ
5	役員の概要	4	ページ
6	評議員の概要	5	ページ
7	教職員の概要	6	ページ
8	組織図	7	ページ

## II. 事業の概要

1	大学・大学院・大学付属黒髪乳児保育園		
	はじめに	8	ページ
	(1) 組織改革	8	ページ
	(2) 大学の予算編成方針及び配分方針の策定	10	ページ
	(3) 大学の諸活動の状況	12	ページ
	(4) 情報公開と広報	14	ページ
	(5) 大学付属黒髪乳児保育園	15	ページ
2	中学・高校		
	(1) 校長の指針	16	ページ
	(2) 学校の基本目標	16	ページ
	(3) 具体的事業計画	16	ページ
3	こども園		
	(1) 園児の動向	17	ページ
	(2) 活動報告からみた今後の課題	17	ページ
4	法人・事務部門		
	(1) 基本方針への取組み	18	ページ
	(2) 学院共通目標への取組み	18	ページ
	(3) 人材の育成	18	ページ
	(4) 組織の連携・強化	19	ページ
	(5) 「学校法人制度の改善方策」への対応	19	ページ
	(6) 経営基盤の強化	20	ページ
	(7) 人事・労務関係	20	ページ

(8) リスク管理への対応	20	ページ
(9) 情報公開	20	ページ
(10) 施設・環境整備	21	ページ
(11) 同窓会、保護者、教会関係、外部団体との連携強化	21	ページ
<b>5</b> 宗教教育		
(1) 学院の宗教活動	21	ページ
(2) 大学における宗教活動	21	ページ
(3) 中学・高校における宗教活動	22	ページ
(4) こども園における宗教活動	22	ページ
<b>6</b> 卒業生数及び進学・就職状況		
(1) 2019年度卒業・卒園数	23	ページ
(2) 2019年度卒業生の進学・就職の状況		
① 中学校	23	ページ
② 高等学校	23	ページ
③ 大学	24	ページ
<b>7</b> 施設等の状況		
(1) 学院等が所有する校地・校舎	26	ページ
(2) 2019年度に実施・取得した工事・設備等	26	ページ
<b>8</b> 各学校事業及び行事（2018年4月1日～2019年3月31日）		
(1) 大学	27	ページ
(2) 中学校・高等学校	28	ページ
(3) こども園	29	ページ
(4) 大学付属黒髪乳児保育園	30	ページ
(5) 学院全体	31	ページ

### Ⅲ. 財務の概要

<b>1</b> 決算の概要		
(1) 貸借対照表の概要	32	ページ
(2) 資金収支計算書の概要	33	ページ
(3) 事業活動収支計算書の概要	34	ページ
(4) 収支の機関別内訳	36	ページ
(5) 収支の大科目別内訳	36	ページ
(6) 機関別収支の内訳	37	ページ
(7) 主な財務比率	39	ページ

<b>2</b>	その他		
(1)	有価証券の状況	41	ページ
(2)	借入金の状況	41	ページ
(3)	学校債の状況	41	ページ
(4)	その他	41	ページ
	① 寄付金の状況		
	② 収益事業の状況		
	③ 関連当事者との取引		
<b>IV.</b>	付録 学校会計について	42	ページ

# I. 学校法人の概要

## 1 建学の精神

学 院 標 語      感 恩 奉 仕

学 院 聖 句      わたしが来たのは、羊が命を受けるため、しかも豊かに受けるためである。(ヨハネによる福音書 10 章 10 節 b)



本学院の校章は、中心部は図案化されたバラの花が置かれ、バラを囲む三角で縁取りされている。三角の型は、キリスト教会には馴染み深いシンボル・三位一体の神に由来するものだが、学院では学校の人間育成・教育の課題である「知育・徳育・体育」を表すものとして扱ってきた。中心部におかれたバラ模様はルター派(ルーテル)教会のシンボルである。「純粹」を表す白いバラ模様の中心には、ルター(ルーテル)紋章では赤いハートに十字架を刻み、キリストの十字架の心が記されているが、学院紋章では「赤い丸」に単純化されている。それは単純化と云うよりは「キリストの十字架の血」に置き換えられたものである。その「一点」こそが、学院の原点であり、それは「靈育」という原点である。「靈育」を原点とし、そこに支えられて「知育・徳育・体育」による人間形成が営まれる学府を「校章」は謳っている。そこから生まれる人間が「神の恩寵(恵)に感謝し、神と人に仕える」「感恩奉仕」に生きること目標を置くところに学院の使命と伝統がある。

## 2 学院の沿革

1908年		米国ペンシルベニア州のインマヌエル・ルーテル教会で、「日本に女子学校を作るために」5ドルが献金された
1921年	9月	北米一致ルーテル教会婦人伝道局総会で、日本に女子学校建設を決議
1922年		日本の福音ルーテル教会第3回総会で、女子学校設立を決議。
1923年	1月	米国婦人伝道局が17万5千ドルを目標に募金運動開始。 2年間で延べ30万人から25万6182ドルを募金。 特に、オハイオ州のジェームズ夫妻は、日本への宣教師を夢みて8歳で夭折した娘ジャニスのために特別多額を寄付。 新しくできる学校は、「Janice James School」と呼ばれることになった
1925年	12月	私立学校認可申請を熊本県知事に提出、翌年2月認可
1926年	4月	九州女学院開校。初代院長マーサ・B・エカード
1928年	10月3日	専門学校入学者検定規定による文部大臣指定 (この日が創立記念日)
1931年	2月	修業年限5箇年指定(高等女学校高等科入学資格)
1931年	3月	第1回卒業式
1941年	11月	九州女学院財団法人設立 校名は九州女学院高等女学校となる
1943年	4月	四年制高等女学校となり校名を清水高等女学校と変更

1944年	4月	法人名を財団法人清水高等女学校に変更
1946年	3月	同窓会「のいばら会」発足
1946年	4月	五年制高等女学校へ復帰 校名は九州女学院高等女学校となる
1947年	4月	九州女学院中学校(新制)を設置
1948年	4月	九州女学院高等学校(新制)及び九州女学院幼稚園を設置
1951年	2月	法人名を学校法人九州女学院に組織変更認可
1975年	1月	短期大学設立認可
1975年	4月	九州女学院短期大学[英語学科、児童教育学科]開学
1996年	12月	大学設立認可
1997年	4月	九州ルーテル学院大学[人文学部人文学科]開学
1998年	3月	短期大学閉学
2001年	3月	野々島グラウンド落成
2001年	4月	中学・高等学校を男女共学とし、ルーテル学院中学・高等学校と校名を変更。法人名を、九州女学院から九州ルーテル学院に改名。さらに幼稚園をルーテル学院幼稚園に園名変更
2001年	7月	中学高校男子寮竣工
2002年	10月	大学4号館竣工
2002年	7月	菊南グラウンド落成
2004年	4月	大学に[心理臨床学科]開設
2005年	3月	学生自治会・部室棟(学生ホール)竣工
2006年	4月	大学に大学院(修士課程)人文学研究科障害心理学専攻開設
2007年	4月	大学人文学部人文学科キャリア・イングリッシュ専攻開設 大学人文学部人文学科こども専攻を開設
2009年	4月	大学が大学基準協会認証評価適合
2010年	4月	大学に小学校教諭一種免許状の課程開設
2013年	4月	認可外保育施設ルーテル学院幼児園開設
2014年	7月	こころとそだちの臨床研究所 開設
2015年	3月	認可外保育施設ルーテル学院幼児園廃止
2015年	4月	ルーテル学院幼稚園を幼保連携型認定こども園ルーテル学院幼稚園へ移行
2016年	4月	九州ルーテル学院大学付属黒髪乳児保育園開園
2016年	4月	大学が大学基準協会認証評価適合(第2期)

### 3 設置する学校・学部・学科等

設置する学校	開校年月	学部・学科等
九州ルーテル学院大学	1997年4月	人文学部人文学科
	2004年4月	人文学部心理臨床学科
九州ルーテル学院大学・大学院	2006年4月	人文学研究科障害心理学専攻
ルーテル学院高等学校	1926年4月	
ルーテル学院中学校	1947年4月	
認定こども園ルーテル学院幼稚園	1948年4月	
九州ルーテル学院大学付属黒髪乳児保育園	2016年4月	

#### 4 学生・生徒・園児の状況

2019年5月1日現在（単位：人）

学校	学年	学科	定員数	クラス数	園児・生徒・学生数		
					学科別計	合計	
こども園	0歳児	3号認定	3	3		2	
	1歳児	3号認定	9			8	
	2歳児	1号認定	子育て支援				4
		3号認定	18			14	
	3歳児	1号認定	42	2		34	
		2号認定	8			12	
	4歳児	1号認定	42	2		27	
		2号認定	8			14	
5歳児	1号認定	42	2		31		
	2号認定	8			14		
合計			180	9		160	
中学校	1年		80	3		88	
	2年		80	2		75	
	3年		80	2		56	
	合計			240	7		219
高等学校	1年		320	8		287	
	2年		320	9		319	
	3年		320	8		298	
	合計			960	25		904
大学	1年	人文	保育	30	2	34	191
			児童教育	20	1	29	
			キャリア	35	2	44	
		心理臨床	65	3	84		
	2年	人文	保育	30	2	36	179
			児童教育	10	1	27	
			キャリア	35	2	43	
		心理臨床	75	3	73		
	3年	人文	保育	30	2	33	184
			児童教育	10	1	30	
			キャリア	35	2	45	
		心理臨床	75	4	76		
	4年	人文	保育	30	2	29	162
児童教育			10	1	16		
キャリア			35	2	41		
心理臨床		75	4	76			
長期履修学生	人文	-	-	0	5		
	心理臨床	-	-	5			
計			600	34	721	721	
科目等履修生、研究生			-	-	2	2	
大学院	1年	障害心理学専攻	5	-	6	6	
	2年		5	-	6	6	
	計			10	-	12	12
	科目等履修生、研究生			-	-	3	3
大学付属 黒髪乳児 保育園	0歳児					5	
	1歳児					13	
	2歳児					16	
	3歳児					7	
	計						41

## 5 役員概要

2019年5月1日現在

職名又は 担当職務	氏名	常勤・非常 勤の別	就任年月日	備考
理事長	福田 邦子	非常勤	2004年10月1日	のいばら会顧問 愛育会福田病院理事
理事	内村 公春	常勤	2016年4月1日	院長 ルーテル学院中学・高等学校長
理事	広渡 純子	常勤	2016年4月1日	大学長
理事	尾田 明子	常勤	1998年10月20日	こども園長
理事	百家 裕幸	常勤	2016年4月1日	事務局長
理事	角本 浩	非常勤	2016年4月1日	日本福音ルーテル神水教会牧師
理事	坂根 信義	非常勤	2002年6月24日	前理事長
理事	潮谷 愛一	非常勤	2014年5月28日	熊本市社会福祉協議会会長
理事	長岡 立一郎	非常勤	1998年10月20日	九州学院理事長
理事	山口 初子	非常勤	2007年9月28日	元熊本ライトハウス・ のぞみホーム施設長
理事	谷口 美樹	非常勤	2014年10月1日	のいばら会(同窓会) 会長
理事	九谷 晶子	非常勤	2016年4月1日	結会(同窓会) 副会長
理事	石原 靖也	非常勤	2006年4月1日	エイジアフロンティア(株) 代表取締役
理事	米澤 房朝	非常勤	2019年3月20日	ヨネザワ取締役社長 城北幼稚園理事長
監事	河崎 隆夫	非常勤	2008年10月1日	元日本福音ルーテル教会 九州教区主事
監事	寺本 行義	非常勤	2008年10月1日	元リデル、ライト両女史 記念館館長

## 6 評議員の概要

2019年5月1日現在

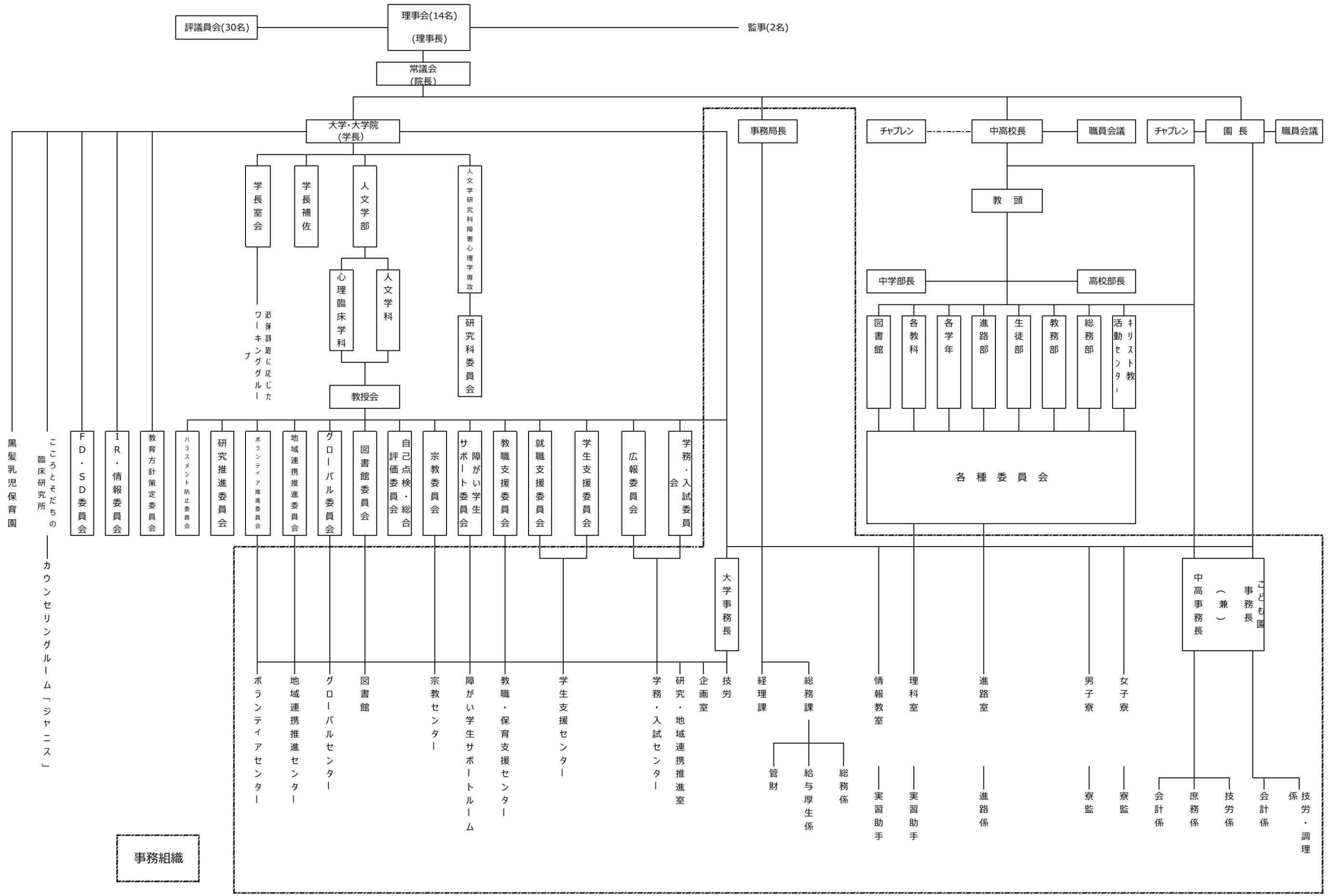
氏名	就任年月日	備考
内村 公春	2002年5月29日	院長、ルーテル学院中学・高等学校長
広渡 純子	2016年4月1日	大学長
尾田 明子	1998年10月20日	こども園長
百家 裕幸	2016年4月1日	事務局長
角本 浩	2016年4月1日	日本福音ルーテル神水教会牧師
坂根 信義	2002年6月24日	前理事長
潮谷 愛一	2014年5月28日	熊本市社会福祉協議会会長
長岡 立一郎	1998年10月20日	九州学院理事長
山口 初子	2007年9月28日	元熊本ライトハウス・のぞみホーム施設長
栗原 裕子	2019年4月1日	大学付属黒髪乳児園長
松本 充右	2016年10月1日	大学教授
金戸 清高	2017年9月21日	大学教授
西山 慎一郎	2014年10月1日	中学高校教諭
濱崎 庸一	2014年10月1日	中学高校教諭
谷 美和	2019年4月1日	こども園教諭
八田 智子	2016年10月1日	のいばら会顧問
谷口 美樹	2014年10月1日	のいばら会会長
九谷 晶子	2013年12月11日	結会副会長
前田 智子	2018年10月1日	のいばら会役員
森本 和幸	2016年12月7日	結会役員
永江 浩子	2019年4月1日	大学保護者
福田 丈人	2018年6月1日	中学高校PTA会長
山口 美和	2019年4月1日	こども園PTA会長
石原 靖也	2006年4月1日	アジアフロンティア㈱代表取締役
市川 一宏	2004年10月1日	ルーテル学院大学長
福田 邦子	2004年10月1日	のいばら会顧問・愛育会福田病院理事
梅元 昭宏	2004年9月28日	梅元税理士事務所長
俵 恭子	2005年2月1日	元大学非常勤講師
松尾 正一	2016年3月22日	熊本日日新聞社編集委員
米澤 房朝	2001年5月30日	ヨネザワ社長・清水学園理事長

## 7 教職員の概要

2019年5月1日現在

## 教職員組織 &lt; 院長 内村 公春 &gt;

区分	教員区分	人数	職員区分	人数
認定こども園 <園長 尾田 明子>	専任	11	専任	1
	臨採	0	嘱託	2
	非常勤	14	非常勤	7
	計	25	計	10
	教職員合計			35
中学校 <校長 内村 公春>	専任	13	専任	0
	臨採	2	嘱託	3
	非常勤	6	非常勤	4
	計	21	計	7
	教職員合計			28
高等学校 <校長 内村 公春>	専任	48	専任	5
	臨採	6	J3	3
	非常勤	24	嘱託	2
			非常勤	5
			寮監	5
	計	78	計	20
教職員合計			98	
大学 <学長 広渡 純子>	専任	36	専任	15
	兼任	67	臨採	1
			非常勤	15
	計	103	計	31
	教職員合計			134
大学院 <研究科長 有村 達之>	兼任講師	4		
	兼任			
	計	4		
	教職員合計			4
保育園 <園長 栗原 裕子>	専任	5	専任	1
	臨採	1	臨採	1
	嘱託	4	非常勤	3
	非常勤	3		
	計	13	計	5
教職員合計			18	
法人事務局 <事務局長 百家 裕幸>			専任	9
			嘱託	1
			非常勤	2
			計	12
	教職員合計			12



## Ⅱ. 事業の概要

### 1 大学・大学院・大学付属黒髪乳児保育園

はじめに

2019年度は、中期目標・中期計画「九州ルーテル学院大学ビジョン2014」に基づくアクションプラン6年目の進捗状況の確認及び最終年度(2020年度)の総括に向けて、取りまとめの主体である学務・入試委員会をはじめとする各種委員会の長及び各学科・専攻・コース及び研究科の長に対してヒアリングを行った。

その間、大学基準協会による前回の「大学評価」で改善が求められた「心理臨床学科の収容定員超過」に関して適正な水準となるように取組を進めてきたことが評価されるなど、着実に種々の計画を進めている。

一方で、計画の進捗が十分でない取組も見られたことから、教育活動、学生募集、学生支援活動等を中心に、大学の根幹である教育の「質保証」の観点に立って「内部質保証」の体制を整備した。

また、私立学校法の改正に伴い、学校法人に対して2020年度から中期計画の策定が義務付けられた。そのため、当初、2021年度に策定・開始予定であった次期ビジョンについて前倒しを行い、中期目標・中期計画「九州ルーテル学院大学ビジョン2020」の策定に取り組んできた。次期ビジョンは、特に教育研究活動について各学科等の将来構想(ビジョン)を示すことにより、大学全体として取り組むべき計画等を明確にした。

次年度には、2022年度に受審予定の大学基準協会による「認証評価」に備えて、学外の有識者による「外部評価」受審のための準備を進めることとしている。

2020年度は、「ビジョン2014」の総括年度であり、「ビジョン2020」の開始年度でもある。このことを意識して2019年度に実施してきた取組等の主なものについて、次のとおり報告を行う。

#### (1)組織改革

##### 1)学長補佐体制の整備

①副学長：教育と学生支援・募集をそれぞれ主担当とする副学長を2名配置。また、学長に事故がある場合の対応として学長代行1名を指名している。

②学長補佐：学長のプレーンとして、教学IR、広報・地域連携・研究、自己点検・評価をそれぞれ担当する学長補佐を3名配置

③学長室会の見直し

学長室会に、副学長、学長補佐を加えることにより、意思決定を迅速かつ柔軟に行えるようにした。

##### 2)内部質保証推進体制の整備

①学長のリーダーシップによる内部質保証の再整備と統括推進

「教育方針策定委員会」を改組し、「内部質保証推進会議」を設置。大学基準協会による評価重点事項である「教育の質保証」に対応できるよう、内部質保証システムを再整備した。

内部質保証推進会議の主導力により、内部質保証に関する学部・研究科の取組・計画事項の共

有を図り、各学科・専攻(コース)、研究科と学務・入試センター等の学内教育研究センター、関係委員会等との連携を緊密に行い、2022年度認証評価の受審に備える。

## ②外部評価

大学の教育研究活動等に関する学院モニター会議の意見に加えて、本学の教育研究活動等の実施状況について十分に把握するため、2022年度認証評価の受審前に「外部評価」を受審することを決定。委員については、大学基準協会の評価委員を中心に選考中である。

## ③教職課程における自己点検・評価

教職課程の内部質保証システムについて、一般財団法人教員養成評価機構に対し、本学の状況について自己分析を行い、同機構からのフィードバック、レビュー等を受けることで、外部評価的な取組を実施。(2019年10月23日)

## 3)教員の人事基本方針の策定

教育研究組織の再編計画に合わせた教員の配置を行えるよう、「九州ルーテル大学教員人事方針」を策定し、大学としての教員ポストの運用を定めた。

## 4)教育研究組織の整備

### ①教学IR等担当専任教員(助教)ポストの創設

2020年度から、本学の情報・教学IRの強化を図り、学長の意思決定・政策判断に必要な教学情報の分析等を担当する助教を採用することを決定した。

### ②公認心理師養成に特化した大学院(研究科)への改編(学内実習施設の整備等)

- ・社会人学生の受入れのための昼夜開講制からストレートマスター(公認心理師養成コースを修了した本学学部卒業生)を主対象とする研究科への移行
- ・研究科の再編に合わせて、特別支援学校専修免許状に係る課程認定の取下げを決定
- ・社会人の学び直しにも対応するため、「臨床心理」等に関する公開講座の開講を検討

### ③グローバルセンターの再構築

- ・短期異文化圏体験学修として授業科目を整備し、人文学科こども専攻及び心理臨床学科の学生も参加しやすい短期の異文化体験学修プログラム(フィンランドの教育、保育、福祉関係など)を検討している。なお、2020年度に中国人留学生が1名入学予定である。
- ・グローバル展開を進めている熊本県内企業の担当者等による「グローバルビジネス」等の授業の実施・コーディネートを行う。

## 5)大学事務組織の再編

### ①部課長制

学内外に、事務組織とその業務分掌をわかりやすくするとともに、大学事務部として学長

室、教務課、学生支援課(就職担当部を含む。)、入試課及び総務課の4課1室体制とした。その主な目的は、次のとおりである。

- ・学長室において、学長、副学長、学長補佐等の執行部における重要事項等について連絡調整を行う機能を持たせることで、迅速な意思決定のための支援を行う。
- ・教務課と学生支援課の居室を1か所に集中することにより、学生対応の効率化、学生サービスの充実を図る。
- ・教務と入試業務を分離することにより、入試改革の対応、本学における入試制度の見直し等に専念できる。

## ②学生募集コーディネーターの設置

2040年グランドデザイン等で示される少子化問題を踏まえ、志願者の安定的な獲得につなげるため、募集活動に特化したコーディネーター(高等学校長経験者)を配置

## ③教学IR等教育情報の分析を担える職員の育成

教学IR等担当専任教員(助教)と協働して関係各課、教員が必要とする教育情報を分析・提供し、及び2022年度に受審予定の大学評価に備えて計画の進捗等の確認に必要な「根拠資料」等の作成を担当できる職員を研修等への派遣を通じて育成

## (2)大学の予算編成方針及び配分方針の策定

授業料の改定に合わせて、学長裁量経費の増強(教員個人研究費からの拠出分(10万円/1人)を含む。)を図り、教育研究活動及び学生支援活動の活性化につながる取組に対して、次のとおり重点配分することとし、諸活動の充実に努めた。

### 1)教育研究環境の充実(施設・設備の整備)

エレベーターの増設等の多額の予算措置を必要とする施設等の整備を除いて、学長裁量経費等により次のとおり教育研究環境の充実に努めた。

#### ①教室の改装(机・座席の更新)

1404教室：144席から156席へ



1406教室：208席



- ・それぞれ、机の幅を広くし、障害のある学生等への対応として可動式の椅子を12席設置

## ②グローバルセンター室(教員室を兼ねる。)の新設

学生の留学相談等を身近に行える  
ような部屋づくり



## ③学生ラウンジの整備

障がいのある学生への対応のため、  
入りロドアをスライド式に切替



学生ラウンジの改修。(LED化)

学生の学修スペースとしても活用



## 2)学生支援(経済支援)

### ①奨学金制度の新設等

#### ・海外体験学修奨学金制度

学生が異文化圏での海外体験学修を行うことにより、異文化に対する理解を深め、国際交流活動等の一層の進展に資することを目的として、海外体験学修プログラムの参加に要する経費を、1人当たり20万円を限度に給付(毎年度総額 200万円)

#### ・学生及び学生団体、教員の社会貢献活動等表彰制度

- 1)社会貢献活動において優れた成果を上げた学生及び学生団体の活動を表彰するとともに、個人活動助成金として1個人5万円以内、団体活動助成金として5万円から10万円を措置
- 2)上記 1)と同様、地域社会、公共機関、産業界等の多様な場での交流推進等優れた成果を上げた教員を表彰するとともに、社会貢献活動助成金として5万円以内で措置

### ②教員の個人研究費配分方法の見直し等

#### ・教育改革・研究助成制度助成金を100万円から150万円に増額

学内研究助成金制度を創設し、科学研究費補助金等競争的資金への申請に対する意欲の向上につなげ、申請者数及び獲得額の増加を図る。

### (3)大学の諸活動の状況

#### 1)入試結果

2020年度入試(2,019年度実施)については、次のとおりである。次年度に向けて、先ず出願者数及び歩留率の増減の要因を探るとともに、入試制度(大学入学共通テストの導入)の大幅な変更点等について高校訪問、出張講義等の機会に丁寧な説明に努めたい。

①出願者数(長期履修学生・編入学生・大学院生を除く。)は477人。2年連続で+74人、+73人と増加の後、-80人の減に転じている。

出願者数については、次表のとおり毎年増減を繰り返しており、その状況も踏まえ、入学者確保計画を立て、選抜を行っている。

入学年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
出願者数	455	511	410	484	557	477
入学者数	178	166	185	181	191	158

②なお、全入試の合格者評定平均は過去最高(4.18)となっている。

<2020年度入試の振返り>

#### ①推薦入試

推薦入試全体では、90名の入学者数(前年比1名減)

- ・**指定校推薦・併設校推薦**：前年度より4名増。61名の出願者(入学者)
- ・**公募推薦**：出願者数は前年度より若干減少。合格(入学)者29名

#### ②一般入試

- ・**一般Ⅰ期**：出願者数222名、合格者数96名、入学者数55名
- ・**センター利用**：出願者数70名、合格者数23名、入学者数2名
- ・**一般Ⅱ期**：出願者数61名、合格者数22名、入学者数11名

これらの結果、入学者数(長期履修学生・編入学生・大学院生を除く。)は、当初計画より8名減の158名となった。

一般入試の結果、歩留率は、2019年度61%に対し、2020年度48%と予想外に低かった。一方、合格者の評定平均値は一般Ⅰ期及びセンター利用において前年度より高かったことから、国公立大学合格後に本学を辞退した受験生が増えたと思料する。

以上のことから、選抜に当たっては、歩留率を参考にしつつ、複数回受験者、評定平均、合格学科(専攻・コース)における入学者の志望順位等から入学辞退の可能性を考えることが重要と思われる。

#### ③その他の入試

- ・**長期履修学生入試**：出願者数1名、合格者数1名、入学者数1名
- ・**大学院入試(社会人特別選抜)**：出願者数5名、合格者数4名、入学者数4名

#### 2)就職結果(第20期2019年度卒業生)

本学の特長である熊本県内企業等への就職率は、約74%と高い数値を維持している。

学生への就職アンケート及び就職先等へのアンケートの分析を行うとともに関連機関との連携を強めていきたい。

①斡旋不要者9名を除く141名中138名が進路を決めた。(決定率 97.9%)未決定者3名についてもハローワークと連携しながら支援中。

②教員採用試験の結果は、熊本県の受験者28名中、一次合格27名、二次合格20名、熊本市の受験者6名中、一次合格6名、二次合格2名である。

③精神保健福祉士試験の結果は、14名中9名が合格(64.3%)

### 3)教育(制度)改革への取組

①学生のグローバル視野を育成するため、グローバルビジネス等の新規科目を2021年度から開設することとした。

②リベラルアーツ科目(共通教育科目)の充実を図るため、教務委員会の下に共通教育検討部会を設置し、共通教育の在り方等の方針を策定することを決定

③データサイエンス科目の充実が求められていることから、熊本大学数理科学教育センターと協定を締結し、次年度に「統計学」を開設することとした。

### 4)学生支援

#### ①障がいのある学生に対する支援

授業等で合理的配慮を受けながら修学している学生は9名である。当該学生に対しては、障がい学生サポートルーム、学生支援センター及び学務・入試センターの連携を深め、合理的配慮の周知が滞りなく行うことができている。

また、障がい学生サポートルームでは、学生サポートボランティアの育成に努めており、パソコンノートテイカーが60名在籍している。加えて、今年度、コーディネーターを1名配置したことにより、スムーズな支援が可能となっている。

さらに、熊本大学と T-TAC Caption(つくば技術科学大学)を活用した遠隔操作によるパソコンテイクの相互利用を構築しており、取組の活性化を期待したい。

今後、支援者養成の充実、学生が中心となった支援体制の構築が課題となるが、学内のバリアフリー化の徹底、卒業後の進路についての相談・支援体制の充実等を図りたい。

#### ②学生・教員教育改善検討会

・大学教育の改善について、学生の参画を得て必要な意見を取り入れる仕組みを構築。

「学習意欲を高める評価のあり方について」をテーマに、学生と教員で評価のあり方等、教育と学修の改善方策について、8月30日に「2019年度学生FD研修会」を開催。

(参加者： 学生24人、教員27人)

#### ③学生のサークル活動等に対する支援等

・本学ダウン症支援部「障害者の生涯学習支援活動」に係る文部科学大臣表彰を受賞

・障がい学生サポートルーム 第15回日本聴覚障害学生高等教育シンポジウムプレゼンテーション

## 賞を受賞

- ・ビジネス電話実務検定において文部科学大臣賞を受賞(17人中、17人合格)
- ・第7回エリザベス・ラッセル杯英語スピーチコンテスト 個人優勝(活水大学主催)

## 5) 高大接続

### ①「大学キャンパス Visit & Try」の充実

ルーテル学院高校との高大連携プログラム「大学キャンパス Visit & Try」は実施2年目で、一定の周知がなされ、10月1日(火)2日(水)の2日間に、大学の11の授業に計38名の高校生の参加を得た。また、授業のほかに、大学のサークル活動へも参加の場を広げた。

### ②ルーテル学院高校及び九州学院高校との進学懇談会の見直し

### ③グローバル教育における学院中高大連携

ルーテル学院中・高の英語担当教員、国際交流委員及び大学のグローバル委員会委員等による意見交換会を開催し、今後の連携の可能性について協議を行った。(2月26日(水)参加者:ルーテル学院中・高12名、大学5名)

## 6) 地域貢献・地域連携推進事業

包括連携協定等による次のような取組に加え、①授業開放制度を構築し、次年度から本学の開講科目を社会人に提供すること、②熊本市等と連携して、自治体等の会場も活用した公開講座の開設等、積極的に展開することを決定した。

- ・合志市との地域の家族見守りサポーター養成講座(昼夜開講)の企画及び講師派遣
- ・菊池市教育委員会主催の「こころの問診票」アンケートの実施、分析及び指導
- ・和水町とのこどもフェスティバル in 和水(保育コース2年生)等
- ・菊陽町教育委員会との英語協力連携「小学校英語フィールドワーク」事業

## 7) カウンセリングルーム「ジャニス」(こころとそだちの臨床研究所)

今年度カウンセリング総数264件(新規35件、継続229件)。開設からおよそ6年が経過し相談件数も安定している。現在、2021年度の公認心理師養成のための学内実習施設の開設に向けて準備を進めている。

## (4) 情報公開と広報

ルーテルブランドの認知度向上を図るため、次のような取組を推進し、学生募集につながるデータ等の積極的な広報を展開する。

### ①「ファクトブック2018及び2019～データでみる九州ルーテル学院大学～」の作成

(別紙「ファクトブック2019」を参照)

### ②大学ホームページの見直し、大学が発行している学生案内、広報誌等の広報成果の検証等を通じた広報の在り方

## (5) 大学付属黒髪乳児保育園

### ① 園児の動向と今後の課題

2019年度の4月1日からの園児数の推移を以下に示す。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
園児数	39	41	41	42	43	44	44	43	41	41	41	41

2018年度のスタートは40名を切る園児数となった。9月までは増加傾向にあるが、11月以降は転居や転園のため園児数は徐々に減少している。また、毎年外国籍の入園も一定数(4、5名)あり、宗教食、離乳食の対応に苦慮している。しかし、AI 通話機の購入や、大学の協力による書類の英文作成により、保護者との連携がスムーズに行われるようになってきている。

保育士不足において、年度初めから非常勤保育士の採用を希望し、ハローワークや保育園連盟に登録し、随時募集を行った。その結果、2名の希望者があった。しかし、本園での保育理念及び労働内容を説明すると辞退される結果となった。高年齢であることから、長く働いていただくことが難しいことも課題である。これからは高年齢での働き方についても検討していく必要があると感じた。

### ② 保育の質の向上について

昨年同様、毎月、園内研修を実施した。また来年度からのキリスト教保育をスタートするにあたり、学長による第1回キリスト教保育研修会に始まり、キリスト教保育園連盟の研修会、ルーテル幼保連合会研修会等に参加し、キリスト教保育指針も学ぶことができた。今後も、園内研修を充実させ、質の向上を目指していきたい。

また、今年度においても保護者へのアンケートを実施し(60%提出)保育園への要望、保育士の対応、各行事、給食対応、病気ケガ対応、お便り発行内容等についての意見をまとめることができた。

一人一人の保護者意見や要望に丁寧に対応していけるように職員間で情報を共有し改善していきたい。

### ③ 地域交流事業の実施

地域に根ざした保育施設を目指し、積極的に地域交流を行った。老人会との交流、子育てネットワーク(伝承遊び)などを実施した。しかし、今年は新型コロナウイルス感染対応により町内会長、第三者委員、民生委員(児童委員含む)と付属園及び大学関係者との懇談会を実施することができなかったため、保護者アンケート結果を郵送し今年度の報告とした。

### ④ 設備の改善

保育室の不具合箇所は今年度も大学の営繕部より保育士の要望に速やかに対応していただいた。また、業者による0歳児クラスの床張り、畳替え、道具棚修繕、休憩室壁紙張り替え等により衛生で安全な環境に改善できている。

### ⑤ 5歳児までの受け入れについて

保護者アンケートにおいて5歳児までの入所、あるいは連携園の確保を希望されている意見は例年上がっている。大学と連携し本市との話し合いを継続していることを保護者に丁寧に説明している状況である。

### ⑥ 新型コロナウイルス感染対応について

2月1日に中国から帰省した保護者と園児については厚労省からの規定に則り保育幼稚園課及び保健所と相談しながら登園時期を考慮した。その後は体調の異常がなく登園できている。また、その他の外

国籍(中国、韓国、モンゴル、エジプト、バングラディシュ)の家庭に対しても人権を十分配慮をしながら、厚労省及び熊本市の情報発信に沿って対応することに努めた。保護者に対しては園においての安心、安全な生活を確保し保健衛生管理をどのように実施しているかを定期的にメールで発信している。また重ねて玄関での文書掲示での告知も実施している。卒園式は来賓不在の縮小した形で実施することができた。

また、熊本市へのコロナ感染に対応する50万円以内の補助金申請書を提出した。他に熊本市からはマスク50枚が郵送されている。

## 2 中学校・高等学校

### 1. 「生徒・保護者・地域に信頼される学校作りの強化」

#### 2. 学校の基本目標

「来て良かった(在校生)」「やって良かった(保護者)」「出て良かった(卒業生)」「働いて良かった(教職員)」学校を目指す。

#### 3. 具体的事業計画

##### (1) 施設計画

①教育環境の充実と整備・・・プールの建設に諸事情から取り組めなかった。次年度への課題

②100周年に向けての設備に関する将来計画の立案・・・取り組みに着手したが、学院全体の総合計画を立てるところまでは行かなかった。

##### (2) 教学面

#### ①キリスト教教育の充実

a. 建学の精神と教育理念を基にしたキリスト教教育の充実については、例年同様、諸行事の充実への取り組みを進めた。

b. 「キリスト教活動センター」の活動の活発化・・・ボランティア活動を含め、例年通りの活動を実施。

#### ②校務運営の充実

a. 教職員間の情報共有と連携、組織力の強化・・・年度の後半、教職員研修会を行うことで、より教職員間の交流と関係強化に取り組んだ。

b. ルーテル中高の課題を明らかにし、解決するための教研を実施・・・上記aで書いているようにマスタープラン委員会を中心として、教員全員参加の「ルーテル会議」を実施。目指す学校像、生徒像、教員の教育力向上に取り組んだ。これは次年度も継続して実施する予定。

③「2020年度大学入試改革・新学習指導要領」への対応と進路保障に取り組む・・・文科省による英語の民間試験導入中止等、大学入試制度の混乱を受け、様子見ということで終わる。

④生徒が将来社会を支える人材へと育つために、自治能力・表現力・対応力等の育成に努力する。

・・・この課題は、私たち中高の教育の目指す「社会に役立つ人材の育成」の土台となるものであり、次年度以降も取り組みを進める。

⑤いじめの防止や特別支援教育の充実に更に努力する。

・・・いじめ等への適切な対応、思いやりの心を育てるよう努力した。ただ特に発達障がい等の特別な支援への組織的取り組みは、サポート委員会を中心に取り組むが、個別事案の内容も多岐にわたり、困難

さを伴うものであった。また不登校等による進路変更する生徒も多く、これが学校の重要な課題の1つであることを、年度末と2020年度初めの職員会議で確認した。

⑥生徒募集活動の強化を図る。

・・・高校の新入生が定員の1割り減という状態を出発した。その反省も含めて、2020年度の募集に取り組み、2020年度の入学生においては、逆に1割以上オーバーする入学生であった。また中学においては、新入生88名でスタートし、全学年3クラスにする計画に従い募集活動と教室整備を行い、2020年度の新入生も85名という定員を超える入学生となった。

課題は、高校の芸術コースの募集である。特に音楽専攻においては、この傾向が続くことも覚悟しなくてはいけない。

⑦国際交流プログラム等の充実・・・例年通りの交流をおこなったが、年度後半に新型コロナ感染の世界的拡大ということがおき、留学生が期間途中で帰国を余儀なくされる事態となった。

⑧高大連携、接続・・・大学との連携が昨年度より進み、「大学キャンパス Visit & Try」など交流が進むが、まだ不十分でありルーテル学院中高の魅力の1つとして、さらに強化していきたい。

### 3 こども園

#### (1)園児の動向

2019年度4月当初(0歳児2名・1歳児8名・2歳児14名・子育て支援4名、3歳児46名・4歳児41名・5歳児45名)161名、年度末は170名となった。課題は1号が定員を割り、2・3号は定員を超えてさらに希望者がいる点である。

保護者の就労の増加が、そのまま2・3号希望児にみられ、要望に応える形で定員より多く受け入れていたが、今後も希望が見込まれることから2号定員の増加を申請した。

これまでは各学年8名だった2号定員が、2020年4月からは各学年12名となった。

今後も2・3号認定については定員の見直しが必要である。

#### (2)活動報告からみた今後の課題

①園児の安全確保・危機管理・防災に取り組む職員の意識を高めるとともに、保護者への啓発に努め理解を得られるようにする。

②2019年10月から幼児教育・保育の無償化が始まり、保護者就労の形態に合わせ子どもたちの保育時間に変化がみられている。何よりも子どもの育ちを大切に考えながら、保護者支援の在り方を考えていかなければならない。

③地域への開放として子育て支援(育児相談やこひつじの会)の活動から20名程が具体的に入園へと継続された。

④特別支援教育については、年々支援を必要とする子ども達が増加傾向にあり、十分な対応に限界があると感じている。2019年度は8名の受け入れを行った。職員間での検討会議、研修等行っているが、大学(心理)との連携を深め、発達支援の必要な子どもへの教師の関わり等教育の専門性を高める。

⑤今年度より、ICT化に積極的に取り組み、担任の全クラス園児管理をタブレットで行い、就労などの合理化も目指す。

⑥『教職員の資質向上』を図る研修の充実が求められるが、質の高い研修の確保と見極めが求められる。今年度は『子ども理解からの保育・教育計画』について園内外の研修に力点をおいた。学校教育との連続性と共に、学院内の連携も含めさらに充実したい。

⑦総合学園の中のこども園ということで、中高・大学との連携を図り、教育活動に取り組みたい。

特に大学とはその専門性を相互に生かしながら研鑽を積みたい。また、黒髪乳児保育園との園児・保育者間の交流、連携等を検討していきたい。

⑧預かり保育・子育て支援の見直しと継続を図る。

⑨適切な(保育・教師・幼稚園)評価に基づく開かれたこども園を目指す

⑩職員の資質向上に伴う教員免許更新と資格取得の取り組みを積極的に行う。

## 4 法人・事務部門

### (1)基本方針への取り組み

法人・事務部門では、学生・生徒・園児の満足度を高め、保護者や地域社会の期待に的確にこたえるために、『地域社会に根差した個性ある学校を目指す』を共通スローガンとして、専門性の高い人材の育成と組織力の強化に取り組んできた。具体的には学院全体の共通目標と、部署・個人ごとの重点目標を連動させ、P(計画)・D(実行)・C(評価)・A(改善)サイクルを回しながら推進してきた。

### (2)学院共通目標への取り組み

#### ①予算目標への取り組み

予算目標については、質の高い教育を安定して継続するために、学院全体の情報を共有し、選択と集中により限られた資源を重点的に配分しながら取り組んできた。特に人材の育成・配置及び教育環境の整備については、少子化の進行を踏まえ中期的な視点から優先順位を明確化して進めており、次年度からは新たな「中期計画」として取り組む。

また人件費・諸経費の見直しや収入財源の多様化については、部分的な効果にとどまっており、今後さらに継続して取り組む。

#### ②「働き方改革」の推進

これまで各部門で業務改善や効率化、時間外労働の縮減、年次有給休暇の取得等に取り組む、働き方に対する意識改革は浸透してきた。具体的には行事や会議体の見直し、会議時間の短縮化、コストダウン・効率性・管理性等に対する意識が高まってきた。ただ部門別・部署別及び個人別の格差があり、組織的な行動の変容にまでは至っていない。今後さらに現場の実情を踏まえた取り組みが必要である。

### (3)人材の育成

#### ① 建学の精神の理解と実践を通じた人材育成

a)建学の精神に基づく高い志と、専門的な知識・実務能力を持った自律的事務職員集団の形成をめざして、学内・学外研修と OJT(実務を通じた育成)及び個人面談を織り込みながら人材の育成に取り組んできた。具体的には部署ごとの毎週のミーティング及び研修会、学院研修会、外部の業務別・階層別研修等を活用し、計画的な人材育成に取り組んでいる。

#### <主な研修会>

- ・大学コンソーシアム熊本SD委員会研修
- ・経営者協会研修会
- ・ビジネスマナー研修会
- ・全事務職員研修会

#### b)キリスト教学校教育同盟研修・会議への参加

- ・新任教師オリエンテーション・夏期学校
- ・全国事務長会議
- ・西南地区事務職員研修会
- ・西南地区事務局長会議

#### ②キャリアプランと自己評価制度の策定

各個人のキャリアプランと自己評価・個人面談を組み合わせた評価制度を策定し、各職位に沿った成長支援を行うために、次年度から導入する。

#### (4)組織の連携・強化

##### ①学院レベルの委員会の取組み

学院全体に係る「学院レベルの委員会」は、目的に応じて各部門の教職員で構成された複数の委員会が編成されており、教職員が協働して学院共通の課題に取り組む組織である。具体的には、幼・保・中・高・大の連携や学院モニターによる外部評価等情報の共有化に役立っている。今後さらに各委員会の運営の充実を図り、学院全体の連携を強化していきたい。

##### ②学内組織・メンバーの情報の共有化

学院全体の事務組織会議体として、事務局会議(構成:局長・各事務長 毎週開催)、課長会(毎月)、事務職員会議(年4回)等があり、情報の共有化、組織の意思統一、コミュニケーション力の強化を図っている。

③大学事務組織の再編と業務分掌の見直しを行い、今後担当業務と責任の明確化、学生にとっての利便性の向上につながるものと期待される。

##### ④学院研修会の実施

毎年創立記念日に全教職員を対象に、学院全体の研修会を開催している。今年度は日程調整上11月22日に実施した。テーマは「職場環境改善を目指した健康教育」とした。今後各部門の現状を踏まえ、より充実した研修会を計画したい。

##### ⑤全事務職員研修会(SD)の実施(SD:スタッフ・ディベロップメント)

12月25日に事務職員の実務能力向上を目的として、「文章の書き方、公文書の取扱い・書き方」をテーマに全事務職員研修会を開催した。意見交換により課題が明確になり、今後につなげていきたい。

#### (5)「学校法人制度の改善方策」への対応

私立学校法の改正に伴い、本学院の「寄付行為」の全面的な改正を行った。また改正に伴い、「ガバナンス・コード」の策定、「中期計画」の策定、「関連諸規程」の制定を行った。今後さらにその他の関連する規程の見直しを進めていく予定である。

## (6)経営基盤の強化

### ①2019年度の決算状況(見込み)について

当初から経費予算については、時間外労働や消耗品費、旅費交通費等の経費縮減努力を行ってきた。しかしながら納付金の減少、退職者の追加及び中期的視点に基づく専任職員の配置等に伴う人件費の増加に加え、校舎の老朽化に伴う補修費及び設備更新、固定資産計上に伴う減価償却費の増加、一過性の支出等により、2019年度の基本金組入前当年度収支差額は約△30百万円、翌年度繰越支払資金は約6億65百万円の見込みである。

②大学では今後修学支援や教育環境の整備充実を図るために、2020年度入学者から授業料の値上げを実施することとなった。

③各部門とも予算編成にあたっては0からの見直しを行い、選択と集中により費用のメリハリをつけて取り組んできた。特に施設整備については緊急性、老朽化、効率性等の優先順位を勘案し取り組んでいる。

④収入財源の多元化の一環として、2019年度から「古本募金」を開始、また外部団体による学院施設使用料の値上げを決定し、2020年度から開始する。

⑤外部資金(補助金・寄付金等)の獲得に向けて、教職協働で取り組んでいる。

補助金については減少傾向にあり、特に特別補助金は関係当局の動向と本学の方針を踏まえ、先を見通して計画的に取り組んでいく必要がある。寄付金は重要な財源であるが、現状十分な取り組みまでには至っておらず、今後周年事業募金のほか恒常的な寄付金にも注力が必要である。

⑥2020年度の経費予算については、学校別担当責任者による予算検討会議を開き、経費の優先順位・削減等の部署別検討を行った。人件費については、時間外労働の縮減、適正な人員の検討など今後も継続して取り組んでいく。

## (7)人事・労務関係

①学院全体及び各部門でそれぞれの現状を踏まえながら、働き方改革に取り組んでいる。特に大学では2019年4月から裁量労働制を導入した。今後の課題としては、時間外労働縮減の体制づくり、年次有給休暇の取得、同一労働同一賃金への対応である。

②メンタルヘルス研修会を開催(11月)するとともに、教職員の身心の健康維持のために産業医を含めた安全衛生委員会を毎月開催し、職場環境の改善に努めている。

③管理者を対象に社会保険労務士を講師として、職場のコミュニケーション力向上、労務管理のポイント等をテーマとした人事労務管理者研修会を実施した。(9月)

## (8)リスク管理への対応

①学院内9か所に防犯カメラを設置し、不審者の侵入、事故等のリスク管理の強化を図っている。

②インフルエンザ予防接種費用の半額負担を実施し、受験時期の予防を促した。

③新型コロナウイルスに対する感染防止策、感染時の対応手順、消毒液の確保状況等の留意事項について、ホームページ等で周知し、注意を促した。

## (9)情報公開

①事業計画、事業報告及び財務情報等については、積極的に情報開示を行っている。

今後 100 周年事業や学院の情報等を含め、ステークホルダーへの積極的な情報発信を行っていききたい。  
②学院モニター会議を年 2 回開催し、学院・学校の諸活動に関して各界・各層の有識者から意見を聴取するとともに、学院・学校の代表者と意見交換を行った。今後外部の意見・評価を教育及び学院運営に活かし、魅力ある学校づくりを目指していききたい。

#### (10)施設・環境整備

①少子化の進行の中、施設の整備は募集にも影響する喫緊の課題である。施設の整備及び老朽化に伴う補修・改修については、継続して取り組んでいる。2019 年度の施設整備関係は約 57 百万円、補修・改修関係は約 22 百万円、合計約 79 百万円実施した。

②学院トイレ改修については、各部門のニーズ及び優先順位に沿って、中長期計画で取り組んでいる。

③教育環境整備及び長期的なコスト削減策として、蛍光灯・水銀灯の LED 化を進めている。今後優先順位に従って毎年予算を組み、2026 年度を目途に計画的に取り組む。

#### (11)同窓会、保護者、教会関係、外部団体との連携強化

これまで同窓会、保護者、教会関係及び各外部団体等から、寄付金や学生・生徒への経済的支援のほか、学院モニターからの助言等様々な協力・支援をいただいていた。今後学院創立 100 周年に向け、各種行事や会合、イベント等を通じて、学院とステークホルダーとの連携をさらに深めていきたい。

## 5 宗教教育

### (1)学院の宗教活動

キリスト教の建学精神に基づき、宗教活動・教育を行う中、本学院は学校と教会が相互に協力できる働きを大変重視しており、双方の連携は深まっていると感じている。特に、毎年実施しているキャンパスミッション懇談会では、県内各教派の牧師・司祭からいただく提案を学院で検討の上、段階的に実施している。今後も、学校と教会の連携がますます深まることを願っている。その他、キリスト教学校教育同盟及びルーテル諸学校との交流も盛んである。また、定例行事であるクリスマスイルミネーション点灯式なども例年通り実施した。

2018 年度は、11 月 26 日(月)27 日(火)に、当番校としてルーテル諸学校キャンパスミッション協議会を本学院で実施した。

### (2)大学における宗教活動

大学では、例年通りに教職員の宗教委員会と学生のチャペル委員会によって宗教活動を進めている。2019 年度、宗教委員会のメンバーは 7 名、チャペル委員会のメンバーは 87 名で、在学生の 12% (2018 年度 62 名、在学生の 8.5%)であった。主な宗教活動は毎日の礼拝である。大学での礼拝は自由参加だが、参加者が多く、日々心静める時を過ごしている。本学の学生はほぼ全員、入学によってキリスト教と出会う。それにもかかわらず、礼拝に多くの学生たちの参加がある。この多数の学生の礼拝への参加は、チャペル委員の活躍によるものが大きい。2019 年度は 142 回の礼拝が行われ、年間平均出席者数は 137.9 名、初めて 19.2%台に達した(2018 年度 141 回の礼拝、119.3 名、16.4%)。皆勤者・精勤者が 34 名で、その内、4 年間皆勤者が 3 名であった。「礼拝が好きになった」という学生

の声も少なくない。礼拝の内容は、通常の礼拝のほか、各行事に合わせて行う礼拝や記念礼拝、誕生者への祝福礼拝、聖歌隊・オルガニスト・ハンドベルチームによる讃美礼拝、「みんなで讃美礼拝」、チャペル委員有志による讃美礼拝、絵本による礼拝、熊本地震追悼礼拝などである。そして礼拝では色々な表彰式や、祝福式なども行っている。

他の主な行事としては、宗教委員が企画運営し、キリスト教教育の一環として行われるサマーキャンプ、クリスマス礼拝がある。

### **(3) 中学・高校における宗教活動**

中学・高校におけるキリスト教教育と活動は、毎日の朝の礼拝と終礼、聖書科の授業、各季節のキリスト教行事によって行われている。2019年度は、中学1年修養会(4月18～19日)、キリスト教伝道講演(7月、学年別に)、感謝祭(11月11日の週)、ハレルヤコーラス練習と讃美(12月)、キャロリング(12月23日)、中学1年慈愛園訪問(12月24日)、クリスマス礼拝(12月24日、学年別)、熊本バンド早天祈祷会(1月30日)が予定通りに実施された。これら他の行事においてもキリスト教学校らしく礼拝と祈りの時間が設けられている。3月に予定されていた高校2年修養会は、新型コロナウイルスの影響による休校に伴い、結果的に中止となったが、修養会を準備する段階において、参加予定の生徒たちがそれまでの自分をふり返って発表を準備するなどの活動があった。

### **(4) こども園における宗教活動**

毎週水曜日に黄チャプレンの司式により園児合同礼拝(15分)を行い、園児の保育の中では、担任が毎朝讃美し、欠席児やその日の出来事を祈って一日を開始する。園児への聖書の話は、視聴覚教材等を使用するなどの工夫もしている。また、職員礼拝を毎日朝8:00から行っている。保護者対象の『聖書の学び』(月1回程度)も大学チャプレンにより実施した。その他、主な行事としてはクリスマス礼拝や、日本福音ルーテル室園教会での教会学校と親子礼拝などを行った。

## 6 卒業生数及び進学・就職状況(2020年3月卒業者)

(1) 2019年度卒業・卒園数 (人)

認定こども園ルーテル学院幼稚園	46
ルーテル学院中学校	56
ルーテル学院高等学校	297
九州ルーテル学院大学	151
九州ルーテル学院大学・大学院	5

(2) 2017年度卒業生の進学・就職の状況

① 中学校 (人)

進学

ルーテル学院高等学校	34
その他	22
合計	56

② 高等学校

進学(合格者延人数) (人)

大学	国公立	16
	私立	205
	九州ルーテル学院大学	24
準大		
短期大学	国公立	1
	私立	8
専門学校		69
合計		323

就職 (人)

産業別就職者	公務員	2
	サービス業	3
合計		5

都道府県別就職者	熊本県	5
	県外	0
		5

## 第 20 期生 一般企業(希望者 53 人 決定者 53 人)

2020 年 4 月 6 日現在

卸・小売業	10
運輸・郵便業	10
製造業	10
金融・保険業	8
不動産・物品賃貸業	4
サービス業	3
宿泊・飲料サービス業	3
建設業	2
複合サービス業	2
生活関連サービス業	1
合 計	53

## 第 20 期生 教育・サービス業(希望者 1 人 決定者 1 人)

学習塾	1
-----	---

## 第 20 期生 医療・福祉(希望者 17 人 決定者 14 人)

医療・福祉(内精神保健福祉士希望者 14 人、合格者 9 人、合格率 64.3%)	14
---	----

## 第 20 期生 公務員(希望者 3 人 決定者 3 人)

公務員	3
-----	---

## 第 20 期生 保育士・幼稚園教諭・施設保育士(希望者 26 人 決定者 26 人)

熊本市保育所	3
荒尾市保育士	1
益城町保育園	1
保育士	8
幼稚園教諭	13
合 計	26

## 第 20 期生 教員(希望者 36 人 決定者 36 人)

熊本県、熊本市教員	23
福岡県教員	1
川崎市教員	1
臨時教員	11
合 計	36

## 第 20 期生 その他

進学	5
----	---

就職状況

・20期生 就職率 97.9%(4月6日現在)(前年度4月9日 97.5%)

希望者	決定数	希望者	決定率%
一般企業	53	53	100.0
医療・福祉・施設	17	14	82.4
公務員	3	3	100.0
幼稚園・保育園	26	26	100.0
教職	36	36	100.0
進学	5	5	100.0
教育・サービス	1	1	100.0
合計	141	138	97.9

\*精神保健福祉士資格(PSW)

年度	受験者数	合格者数	合格率(%)	全国平均(%)
2016	11	8	72.7	62.0
2017	17	14	82.4	76.9
2018	17	13	76.5	62.9
2019	14	9	64.3	62.7

## 7 施設等の状況

### (1) 学院が所有する校地・校舎（2019年5月1日現在）（単位：㎡）

所在地	施設等	校地面積	校舎面積	利用対象
熊本市中央区黒髪3丁目 269番地 他 (黒髪キャンパス)	校地	46,791.28		大学、中高、 幼稚園
	校舎 15 棟 (学院会館、学 生 自治会棟含む)		21,434.78	同上
	体育館 1 棟		1,925.88	中高
	部室棟 2 棟		395.28	同上
	寮 2 棟		4,157.11	同上
	その他		82.88	守衛室、 トイレ棟
熊本市北区鶴羽田5丁目 952番地他 (菊南グラウンド)	校地	48,987		大学、 中高(野球部)
	部室、監督室他		342.41	同上
合志市野々島中野4393番 56他 (野々島グラウンド)	校地	19,099		中高 (サッカー部)
	クラブハウス		228.8	同上
	部室棟他		85.31	同上
阿蘇郡南阿蘇村河陽4326 番4他(阿蘇山荘)	校地	37,059		法人で管理
	建物5棟		719.66	同上
熊本市中央区黒髪2丁目 827番 (大学付属黒髪乳児保育園)	保育園1棟	633.11	369.81	保育園
合 計		152,569.39	29,741.92	

### (2) 2019年度に実施・取得した主な工事・設備等

【中 高】	中高隣接土地購入(29㎡):(熊本市より購入)	92.2万円	
	中高旧美術教室改修工事	274万円	
	生徒用椅子・机・ロッカー等	262万円	
	クラリネット、フルート等楽器	201万円	
	隣接駐輪場ブロック・フェンス工事	227万円	
	プロジェクター・電子黒板等	421万円	
	男子寮厨房機器・空調他	268万円	
	本館エレベータ安全対策工事	165万円	
	【大 学】	消防設備(火災受信機)	190万円
		1号館トイレ改修工事	179万円
証明書発行機(リース資産)		791万円	
学生支援センター改修工事		314万円	
【こども園】	保育室コーティング施工工事	232万円	
	木製園庭遊具	269万円	
【法 人】	学校会計システム(5年繰延資産)	855万円	
	各防犯カメラ設置工事一式	64.8万円	

## 8 各学校事業及び行事(2019年4月1日～2020年3月31日)

### 九州ルーテル学院大学

4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入学式、1年次生保護者会</li> <li>・新学期オリエンテーション</li> <li>・フレッシュマンキャンプ (新入生歓迎オリエンテーション)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前期開講</li> <li>・学生支援懇談会</li> </ul>
5月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チャペルゲストマンス</li> <li>・ワートバーグ大学演奏会・交流会</li> </ul>	
6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新入生歓迎スポーツデー</li> <li>・大学説明会</li> <li>・公開講座</li> </ul>	
7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学コンソーシアム進学ガイダンスセミナー(学外)</li> <li>・公開講座</li> <li>・第1回オープンキャンパス</li> </ul>	
8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前期定期試験・まとめ期間</li> <li>・大学院説明会</li> <li>・リカレント教育</li> <li>・保育コース合宿</li> <li>・教員免許状更新講習</li> <li>・公開講座</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・FD・SD研修会</li> <li>・第2回オープンキャンパス</li> <li>・追・再試験</li> <li>・長期履修学生入学試験</li> <li>・異文化体験学修</li> </ul>
9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サマーキャンプ</li> <li>・秋季卒業式・入学式</li> <li>・大学コンソーシアムSD研修</li> <li>・公開講座</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ペプ・ラリー</li> <li>・後期開講</li> <li>・学生支援懇談会</li> </ul>
10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Campas Visit&amp;Try</li> <li>・創立記念日</li> <li>・公開講座</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学院入学試験</li> <li>・第3回オープンキャンパス(個別相談会)</li> <li>・こどもフェスティバル</li> </ul>
11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フィリア祭</li> <li>・ホームカミングデー</li> <li>・指定校・併設校入学試験</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公開講座</li> <li>・授業料全額免除、公募推薦入学試験</li> </ul>
12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クリスマス礼拝</li> <li>・クリスマス祝会</li> <li>・プレ・カレッジ</li> </ul>	
1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学入試センター試験</li> <li>・後期試験・まとめ期間</li> </ul>	
2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般Ⅰ期、外国人、編入学試験</li> <li>・卒業研究発表</li> <li>・卒業演奏会</li> <li>・大学入試センター試験利用入学試験</li> <li>・学位論文最終試験</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・追・再試験</li> <li>・大学院入学試験(2次)</li> <li>・教職赴任前研修会</li> <li>・FD・SD研修会</li> <li>・異文化体験学修</li> </ul>
3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般Ⅱ期、長期履修学生入学試験</li> <li>・学位授与式(中止)</li> <li>・Farewell Party(中止)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・兼任講師懇談会(中止)</li> <li>・合格者招集日(中止)</li> <li>・在学生オリエンテーション(中止)</li> </ul>

## 8 各学校事業及び行事(2019年4月1日～2020年3月31日)

### ルーテル学院中学・高等学校

4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・男女入寮式</li> <li>・入学式</li> <li>・始業式</li> <li>・新入生オリエンテーション</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学1年生修養会</li> <li>・中学歓迎遠足</li> <li>・防災訓練</li> <li>・奨学生激励会</li> </ul>
5月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育大会</li> <li>・内科検診</li> <li>・PTA総会、懇親会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学授業参観</li> <li>・高校3年生進路説明会</li> <li>・高校総体・総文(5/31～)</li> </ul>
6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高校前期中間考査</li> <li>・GTEC受験</li> </ul>	
7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高1、高2年生カリキュラム説明会</li> <li>・高校第1回オープンキャンパス</li> <li>・キリスト教伝道講演</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大掃除、全校集会</li> <li>・中学サマースクール</li> </ul>
8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・私学教育一斉研修</li> <li>・大掃除、全校集会</li> </ul>	
9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高校第2回オープンキャンパス</li> <li>・中学体験学習</li> <li>・高校前期期末考査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・留学制度説明会</li> </ul>
10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・秋期休業</li> <li>・創立記念日</li> <li>・後期始業の辞</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学院祭</li> <li>・ルーテル学院音楽会</li> </ul>
11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームカミングデー</li> <li>・中学、高校入試直前アドバイス会</li> <li>・後期中間考査</li> </ul>	
12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大掃除、全校集会</li> <li>・クリスマス礼拝、キャロリング</li> <li>・中学入試(専願・奨学前期)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学2年研修旅行</li> </ul>
1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大掃除、全校集会</li> <li>・中学入試(一般前期・奨学後期)</li> <li>・高校入試(専願・奨学)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高校1年研修旅行</li> </ul>
2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学入試(一般後期)</li> <li>・高校入試(一般)</li> <li>・中学入学者登校日</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・後期期末考査</li> </ul>
3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高校卒業礼拝・卒業式</li> <li>・中学卒業礼拝・卒業式</li> <li>・大掃除、全校集会</li> <li>・高校入学者登校日</li> <li>・(芸術コース演奏会:中止)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(高校2年生修養会:中止)</li> <li>・(高校1年研修旅行:中止)</li> <li>・(中学3年生語学研修旅行:中止)</li> <li>・(アメリカ研修旅行、韓国研修旅行:中止)</li> </ul>

## 8 各学校事業及び行事(2019年4月1日～2020年3月31日)

### 認定こども園ルーテル学院幼稚園

4月	・入園式 ・新学期始園式 ・入園感謝親子礼拝	・保育参観 ・お見知り遠足 ・誕生会
5月	・母の日礼拝 ・こひつじの会(未就園児) ・サツマイモ苗植え	・誕生会
6月	・保育参観 ・花の日礼拝 ・誕生会	
7月	・1学期終園式 ・プラネタリウム見学(年長) ・誕生会	
8月	・夏期保育 ・長期休暇預かり保育 ・誕生会	
9月	・2学期始園式 ・祖父母お祝い会 ・誕生会	
10月	・運動会 ・入園説明会 ・バザー(保護者会主催)	・誕生会 ・芋ほり遠足
11月	・2020年度入園児願書受付 ・お泊り保育 ・子ども祝福礼拝	・収穫感謝礼拝 ・みそ作り ・誕生会
12月	・2学期終園式 ・クリスマス礼拝 ・年長組家族礼拝	・誕生会
1月	・3学期始園式 ・年中組家族礼拝 ・誕生会	
2月	・保育参観(だご汁) ・節分(豆まき) ・観劇会	・もも・年少組家族礼拝 ・誕生会
3月	・卒園感謝礼拝(室園教会) ・卒園式 ・終園式	・誕生会

定例行事 ・避難訓練(毎月)  
・体重測定(毎月)

## 8 各学校事業及び行事(2019年4月1日～2020年3月31日)

### 大学付属黒髪乳児保育園

4月	・新学期始園式 ・入園式 ・お見知り遠足	・保護者会 ・誕生会
5月	・個人面接 ・内科検診 ・なかよし保育	・誕生会
6月	・保育参観 ・なかよし保育 ・プール開き	・誕生会
7月	・七夕、夏祭り(地域老人会との交流) ・なかよし保育 ・誕生会	
8月	・プール納め ・なかよし保育 ・誕生会	
9月	・祖父母との集い ・なかよし保育 ・誕生会	
10月	・運動会 ・なかよし保育 ・こどもフェスティバル参加	・誕生会
11月	・勤労感謝訪問 ・芋ほり ・団子汁会(地域老人会との交流)	・内科検診 ・なかよし保育 ・誕生会
12月	・発表会 ・歯科検診 ・老人会との交流会	・なかよし保育 ・誕生会
1月	・誕生会 ・なかよし保育	
2月	・豆まき ・なかよし保育 ・保育参加	・誕生会
3月	・ひなまつり ・お別れパーティー ・卒園式	・なかよし保育 ・誕生会

定例行事 ・体重測定(毎月)  
 ・災害安全訓練(毎月)  
 ・安全教育(毎月)  
 ・防犯訓練(年4回)

## 8 各学校事業及び行事(2019年4月1日～2020年3月31日)

### 学院全体

4月	・辞令交付式 ・新任教職員オリエンテーション ・学院歓迎会	・教職員健康診断、胃検診
5月	・決算会計監査、監事監査 ・第1回理事会 ・第1回評議員会	・職員対象接遇マナー研修
6月	・キャンパスミッション懇談会	
7月		
8月	・キリスト教学校教育同盟西南地区夏期学校(本学当番校 於:KKRホテル熊本) ・キリスト教学校教育同盟西南地区新任教師オリエンテーション(本学当番校 於:KKRホテル熊本) ・第1回臨時理事会	
9月	・第2回理事会 ・第2回評議員会	
10月	・創立記念日 ・内部統制監査	
11月	・ホームカミングデー ・内部統制監査 ・監事監査	
12月	・第3回理事会 ・第3回評議員会 ・半期決算会計監査	・クリスマスイルミネーション点灯式 ・全職員研修会 ・教職員クリスマス礼拝
1月	・教職員新年礼拝 ・第2回臨時理事会	
2月	・第3回臨時理事会 ・会計士と理事とのコミュニケーション	
3月	・第4回理事会 ・第4回評議員会	

### Ⅲ財務の概要

#### 1 決算の概要

本学院の会計は「学校法人会計基準」に基づいている。決算の見方は、事業報告書巻末の解説を参照されたい。

##### (1) 貸借対照表の概要

(単位：千円)

科目	2019 年度末	2018 年度末	増減
<b>資産の部</b>			
<b>固定資産</b>	4,663,269	4,735,060	△71,792
有形固定資産	4,351,950	4,453,125	△101,175
土地	1,494,760	1,494,760	0
建物	1,937,474	2,012,880	△75,406
その他有形固定資産	919,717	945,485	△25,769
<b>特定資産</b>	274,382	269,805	4,576
減価償却引当特定資産	175,000	170,000	5,000
退職給与引当特定資産	91,000	91,000	0
整備引当特定	8,382	8,805	△424
その他の固定資産	36,937	12,130	24,807
<b>流動資産</b>	784,181	791,923	△7,743
現金預金	664,550	706,364	△41,814
その他流動資産	119,631	85,559	34,072
<b>資産の部合計</b>	5,447,449	5,526,983	△79,534
<b>負債の部</b>			
<b>固定負債</b>	587,952	648,120	△60,168
長期借入金	280,222	346,378	△66,156
その他固定負債	307,730	301,742	5,988
<b>流動負債</b>	223,675	233,059	△9,383
短期借入金	66,156	71,366	△5,210
その他流動負債	157,519	161,693	△4,173
<b>負債の部合計</b>	811,627	881,179	△69,552
<b>純資産の部</b>			
<b>基本金</b>	6,872,514	6,766,886	105,628
第1号基本金	6,709,514	6,603,886	105,628
第4号基本金	163,000	163,000	0
繰越収支差額	△2,236,692	△2,121,082	△115,610
翌年度繰越収支差額	△2,236,692	△2,121,082	△115,610
<b>純資産の部合計</b>	4,635,822	4,645,804	△9,983
<b>負債及び純資産の部合計</b>	5,447,449	5,526,983	△79,534

## (2) 資金収支計算書の概要

(単位:千円)

科目	2018年度決算	2019年度予算	2019年度決算	前年比	予算比
<b>収入の部</b>					
学生生徒等納付金収入	1,294,696	1,272,431	1,264,524	△30,172	7,907
手数料収入	27,166	25,392	26,385	△781	△992
寄付金収入	16,000	9,901	13,105	△2,895	△3,204
補助金収入	660,994	651,480	666,811	5,817	△15,331
付随事業・収益事業収入	74,313	74,326	76,076	1,763	△1,750
受取利息・配当金収入	76	90	106	30	△16
雑収入	43,361	86,724	89,952	46,591	△3,228
前受金収入	97,244	88,637	92,557	△4,686	△3,920
その他の収入	1,253,796	1,134,669	1,208,438	△45,357	△73,769
資金収入調整勘定	△171,273	△140,902	△204,400	△33,126	63,498
前年度繰越支払資金	765,427	706,364	706,364	△59,063	0
収入の部 合計	4,061,798	3,909,112	3,939,919	△121,879	△30,807
<b>支出の部</b>					
人件費支出	1,411,668	1,478,377	1,467,387	55,718	10,990
教育研究経費支出	330,958	356,085	323,308	△7,650	32,777
管理経費支出	179,859	205,147	195,308	15,449	9,839
借入金等利息支出	4,566	4,370	3,936	△631	434
借入金等返済支出	73,166	71,464	71,366	△1,800	98
施設関係支出	132,379	29,278	24,600	△107,779	4,678
設備関係支出	78,503	75,920	57,568	△20,935	18,352
資産運用支出	81,010	5,016	7,134	△73,876	△2,118
その他の支出	1,137,215	1,068,106	1,191,117	53,902	△123,011
〔予備費〕		5,000			5,000
資金支出調整勘定	△73,890	△38,695	△66,355	7,536	27,659
翌年度繰越支払資金	706,364	650,545	664,550	△41,814	△14,005
支出の部 合計	4,061,798	3,909,112	3,939,919	△121,879	△30,807

2019年度の資金収支は、翌年度繰越支払資金が4,200万円減少し、6億6,500万円となった。変動の大きな要因は以下のものが挙げられる。(前年比)

## 【主要な収支改善要因】

- 雑収入の増加 : 勤続年数の長い教職員の定年退職者が複数名いたため退職金財団からの交付金が多額となり全体で4,660万円増加した。
- 施設関係支出の減少 : 昨年はサッカー場人工芝工事代1億800万円を計上したが、今年度は大きな工事等はなくほぼ同額の1億700万円が減少した。
- 設備関係支出の減少 : 昨年は大きな設備投資として大学学内LAN機器リース3,500万円、中高放送設備機器更新2,000万円の2件を計上したが、今年は大学AAA学務系システムリース1,500万円の1件のみだったので、全体で2,000万円減少した。

## 【主要な収支悪化要因】

- 学生生徒等納付金収入の減少 : 高校新入生の減少及び、こども園保育料無償化に伴い全体で3,000万円の減少となった。
- 人件費支出の増加 : 定期昇給及び勤続年数の長い教職員の定年退職により全体で5,500万円増加した。
- 管理経費支出の増加 : 中高寮の経費が年々増加しており、全体で1,500万円の増加となった。

## (3) 事業活動収支計算書の概要

単位：千円

		科目	2018 決算	2019 年度予算	2019 年度決算	前年比	予算比
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	1,294,696	1,272,431	1,264,524	△30,172	7,907
		手数料	27,166	25,392	26,385	△781	△992
		寄付金	12,877	8,721	9,230	△3,647	△509
		経常費等補助金	660,994	651,480	666,811	5,817	△15,331
		付随事業収入	74,313	74,326	76,076	1,763	△1,750
		雑収入	20,224	75,844	78,917	58,694	△3,073
		教育活動収入計	2,090,269	2,108,194	2,121,943	31,673	△13,748
		事業活動支出の部	人件費	1,394,355	1,464,077	1,453,031	58,676
	教育研究経費	466,133	498,485	464,823	△1,310	33,662	
	管理経費	195,408	206,259	196,088	681	10,171	
	徴収不能額等	73	0	0	△73	0	
	教育活動支出計	2,055,969	2,168,821	2,113,943	57,974	54,877	
	教育活動収支差額	34,300	△60,626	7,999	△26,301	△68,626	
	教育活動外収支	事業活動収入の部	受取利息・配当金	76	90	106	30
教育活動外収入計		76	90	106	30	△16	
事業活動支出の部		借入金等利息	4,566	4,370	3,936	△631	434
教育活動外支出計		4,566	4,370	3,936	△631	434	
教育活動外収支差額		△4,490	△4,280	△3,829	661	△451	
経常収支差額		29,810	△64,906	4,170	△25,640	△69,077	
特別収支	事業活動収入の部	その他の特別収入	4,656	1,180	3,875	△781	△2,695
	特別収入計	4,656	1,180	3,875	△781	△2,695	
	事業活動支出の部	資産 処分 差額	616	0	3,518	2,902	△3,518
	その他の特別支出	0	14,510	14,510	14,510	0	
	特別支出計	616	14,510	18,028	17,412	△3,518	
	特別収支差額	4,041	△13,330	△14,153	△18,193	823	
基本金組入前当年度収支差額	33,851	△78,336	△9,982	△43,833	△68,354		
基本金組入額合計	△121,687	△121,002	△105,628	16,059	△15,374		
当年度収支差額	△87,836	△199,338	△115,610	△27,774	△83,728		

2019年度の事業活動収支は、教育活動収支差額が800万円、教育活動外収支が△383万円、特別収支差額が△1,415万円となり、基本金組入前当年度収支差額は△998万円となった。2019年度の主な増減要因として以下のものが挙げられる。(前年比)

## 【主な増収要因】

雑収入の増加 : 勤続年数の長い教職員の定年退職者が複数名となり、それに伴う退職金財団交付金と退職引当金取崩が多額となり全体で5,870万円増加した。

【主な減収要因】

- 学生生徒納付金の減少 : 高校新入生の減少及びこども園保育料無償化に伴い全体で3,000万円減少した。
- 寄付金の減少 : 特別寄付金165万円、一般寄付金46万円、現物寄付153万円減少し全体で364万円減少した。
- 人件費の増加 : 定期昇給及び勤続年数の長い教職員の定年退職と退職給与引当金繰入額の計上により全体で5,860万円増加した。
- その他の特別支出の増加 : 前年度計上漏れしていた過年度修正額を今年度の支出としたため、特別支出全体で1,740万円増加した。

基本金組入前当年度収支差額と減価償却額の内容は下表のとおり。(単位：千円)

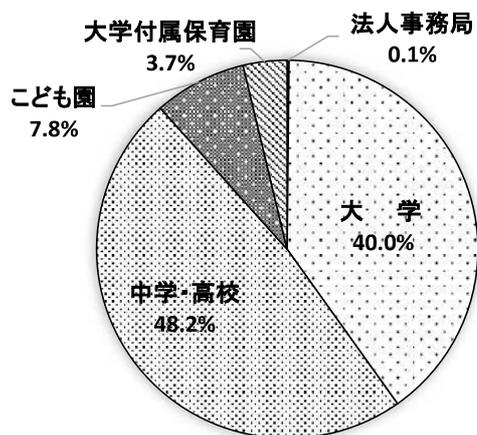
科目	2018年度決算	2019年度予算	2019年度決算	前年比	予算比
<b>基本金組入前当年度収支差額</b>	<b>33,851</b>	<b>△78,336</b>	<b>△9,982</b>	<b>△43,833</b>	<b>△68,354</b>
大学	17,501	△32,514	2,782	△14,719	△35,296
高校	27,118	△32,803	△20,394	△47,512	△12,409
中学	1,218	18,611	23,703	22,486	△5,093
こども園	7,092	△2,307	3,173	△3,918	△5,480
保育園	2,519	△4,396	△1,205	△3,725	△3,191
法人	△21,667	△24,928	△18,042	3,624	△6,886
<b>減価償却額</b>	<b>150,723</b>	<b>158,022</b>	<b>156,805</b>	<b>6,081</b>	<b>1,217</b>
<b>減価償却累計額</b>	<b>2,572,906</b>		<b>2,707,454</b>	<b>134,548</b>	

(4) 収支の機関別内訳

法人全体の事業活動収支の機関別内訳は、次のグラフのとおりである。

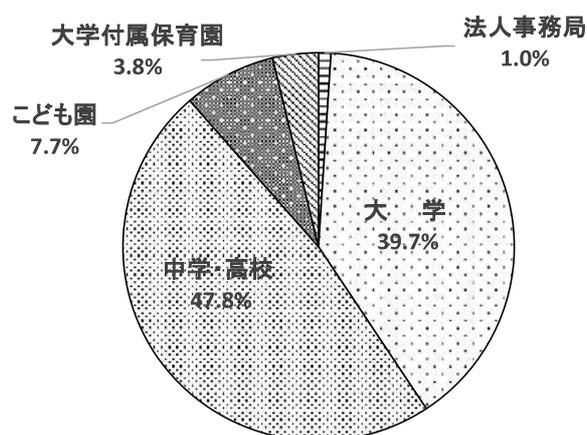
【事業活動収入】

< 2,125,924 千円 >



【事業活動支出】

< 2,135,907 千円 >

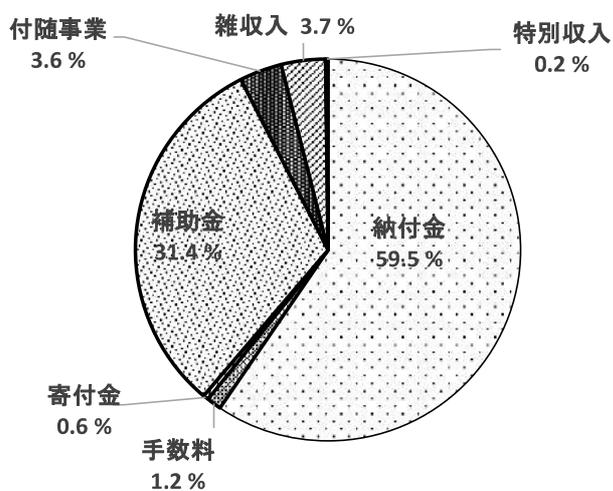


(5) 収支の大科目別内訳

法人全体の事業活動収支の大科目別内訳は、次のグラフのとおりである

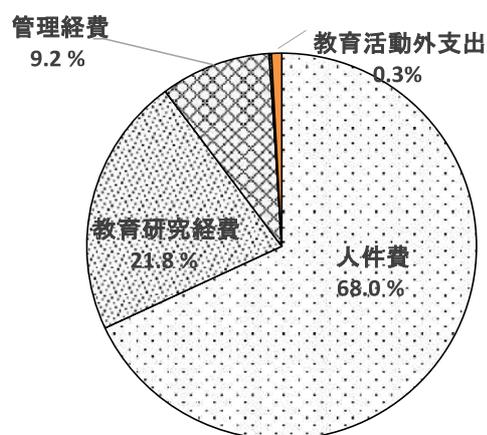
【事業活動収入】

< 2,125,924 千円 >



【事業活動支出】

< 2,135,907 千円 >



(6) 機関別収支の内訳

各機関の事業活動収支の大科目別内訳は、次のグラフのとおりである。

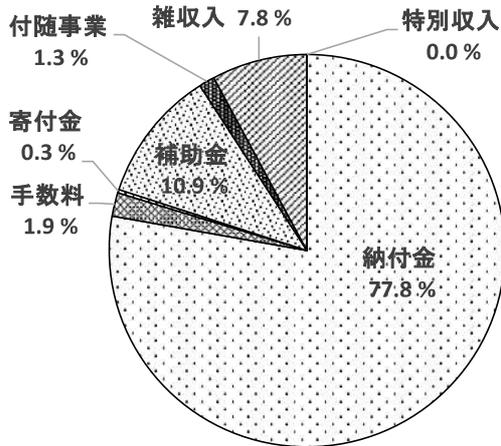
なおグラフにおいて、こども園の収入の内訳について注意が必要である。納付金

(基本保育料+給食費)は保護者が負担する保育料であるが、2019年10月から基本保育料無償化に伴い、在園児居住の各市からの補助金(施設型給付費)が大幅に増額された。

【大学の事業活動収支の構成】

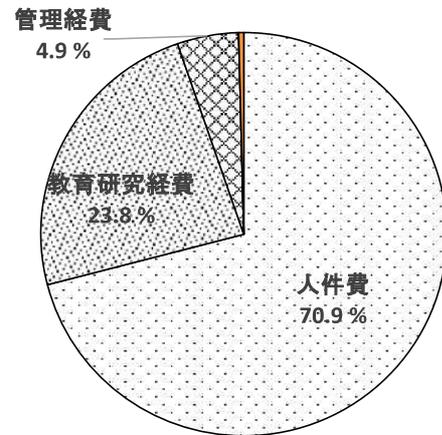
【事業活動収入】

< 851,404 千円 >



【事業活動支出】

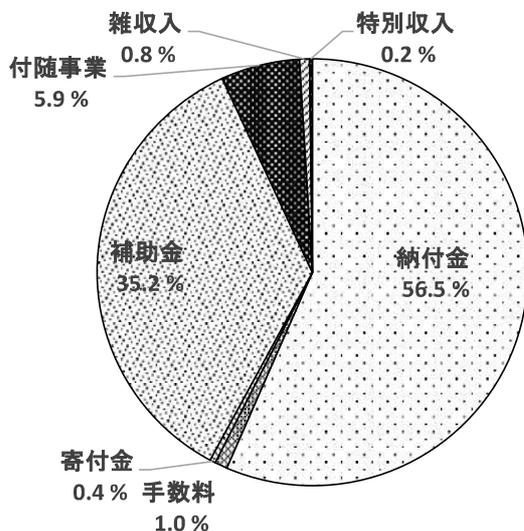
< 848,622 千円 >



【中学・高校の事業活動収支の構成】

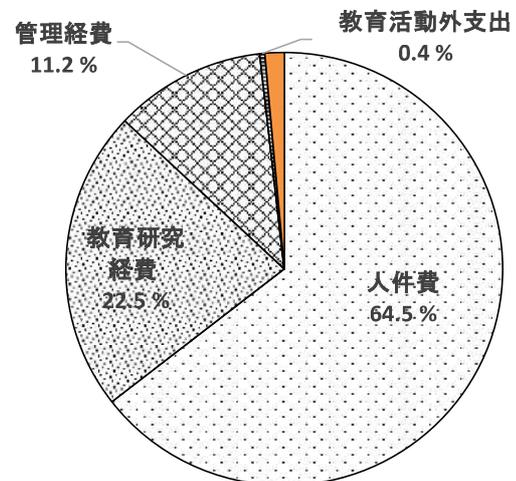
【事業活動収入】

< 1,025,088 千円 >



【事業活動支出】

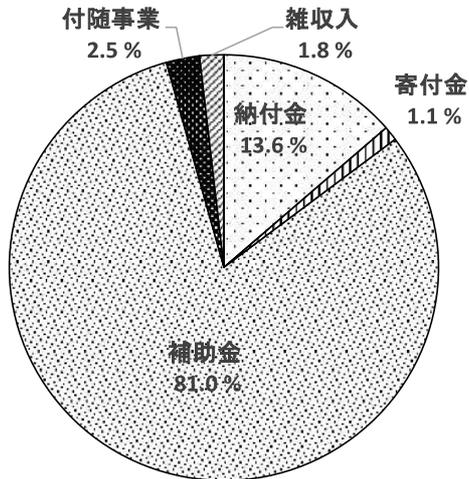
< 1,021,778 千円 >



【こども園の事業活動収支の構成】

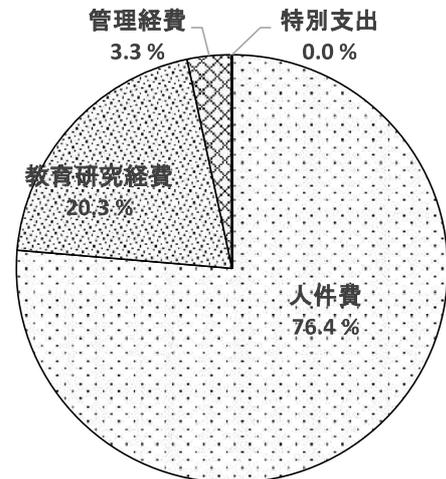
【事業活動収入】

< 164,997 千円 >



【事業活動支出】

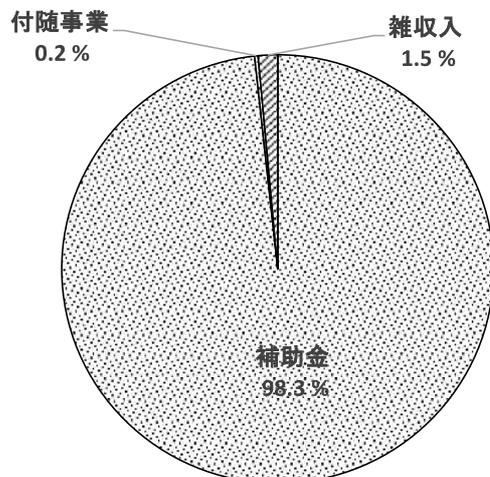
< 163,442 千円 >



【大学付属保育園の事業活動収支の構成】

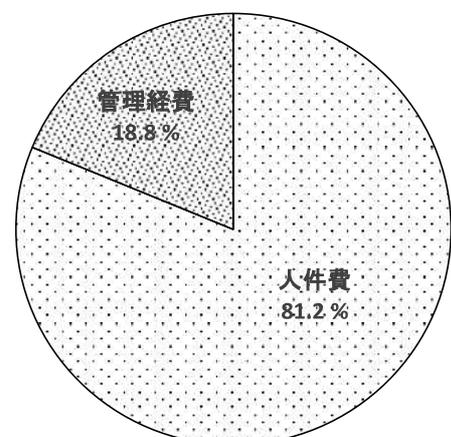
【事業活動収入】

< 79,038 千円 >



【事業活動支出】

< 80,876 千円 >



### 主な財務比率

\*2015年度から改正された学校法人会計基準に基づいた財務比率

#### 1. 【貸借対照表関係比率】<法人全体>

※△高いほど良い ▼低いほど良い

観点	比率名	算式	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	平均値	良い	留意点・本学院の傾向等
自己資金は充実しているか	純資産構成比率	$\frac{\text{純資産}}{\text{負債} + \text{純資産}}$	82.6%	83.4%	83.3%	84.1%	85.1%	83.8%	△	毎年改善し平均値レベルを少し上回った。今後も継続して取り組む。
	繰越収支差額構成比率	$\frac{\text{繰越収支差額}}{\text{負債} + \text{純資産}}$	-38.2%	-37.3%	-36.7%	-38.4%	-41.1%	-21.8%	△	前年より比率は低下。平均値より低く今後も継続して取り組む。
固定資産は長期資金でまかなわれているか	固定比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{純資産}}$	108.9%	104.9%	100.9%	101.9%	100.6%	100.0%	▼	長期的資金の安全性指標。100%以下が望ましい。平均値より高い。
	固定長期適合率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{純資産} + \text{固定負債}}$	93.6%	91.0%	87.9%	89.4%	89.3%	89.9%	▼	安全性指標。100%以下が健全。比率は前年とほぼ同数。100%以下であり平均値レベル。
資産構成はどうか	固定資産構成比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{総資産}}$	89.9%	87.4%	84.1%	85.7%	85.6%	83.8%	▼	総資産に対する固定資産の割合。前年とほぼ同数。平均値より高い。
	有形固定資産構成比率	$\frac{\text{有形固定資産}}{\text{総資産}}$	85.1%	82.5%	79.3%	80.6%	79.9%	56.8%	▼	総資産に対する有形固定資産の割合。比率は前年より若干減少したが、平均値より高い。
	特定資産構成比率	$\frac{\text{特定資産}}{\text{総資産}}$	5.6%	4.6%	4.5%	4.9%	5.0%	22.8%	△	各種引当特定資産等の長期的資産の蓄積状態を表す。前年とほぼ同数。平均値より低い。
	流動資産構成比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{総資産}}$	12.2%	12.6%	15.9%	14.3%	14.4%	16.2%	△	短期的な支払能力指標。前年と比率はほぼ同数。平均値より低い。
負債に備える資産が蓄積されているか	流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	255.7%	322.4%	366.4%	340.0%	350.1%	238.0%	△	短期的な支払能力指標。短期負債の返済能力は問題なし。
	退職給与引当特定資産保有率	$\frac{\text{退職給与引当特定資産}}{\text{退職給与引当金}}$	32.8%	33.2%	33.0%	34.1%	34.4%	54.1%	△	将来への準備資金。徐々に改善しているが、平均値よりまだ低い。
資産の保有状況	積立率	$\frac{\text{運用資産}}{\text{要積立額}}$	26.2%	29.6%	36.8%	34.4%	31.6%	69.9%	△	前年より比率は低下した。運用資産の蓄積がさらに必要。
負債の割合はどうか	固定負債構成比率	$\frac{\text{固定負債}}{\text{負債} + \text{純資産}}$	13.5%	12.7%	12.4%	11.7%	10.8%	9.4%	▼	毎年確実に返済し続けており、平均値に近づいてきた。
	流動負債構成比率	$\frac{\text{流動負債}}{\text{負債} + \text{純資産}}$	3.9%	3.9%	4.3%	4.2%	4.1%	6.8%	▼	流動負債は低く、問題なし。
	総負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{負債} + \text{純資産}}$	17.4%	16.6%	16.7%	15.9%	14.9%	16.2%	▼	徐々に改善傾向である。前年に引き続き平均値を下回った。
	負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{純資産}}$	21.1%	20.0%	20.1%	19.0%	17.5%	19.3%	▼	他人資金は自己資金を上回っていない。改善傾向であり、平均値を下回った。

※「平均値」は、全国と同規模大学法人数値（2018年度 私立事業団まとめ）

※運用資産＝現金預金＋特定資産＋有価証券

※要積立額＝減価償却累計額＋退職給与引当金＋2号基本金＋3号基本金

\*2015年度から改正された学校法人会計基準に基づいた財務比率

2【収支計算書関係比率】<法人全体>

※△高いほど良い ▼低いほど良い

観点	比率名	算式	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	平均値	良い	留意点・本学院の傾向等
経営状況はどうか	事業活動収支差額比率	$\frac{\text{基本金組入前当年度収支差額}}{\text{事業活動収入}}$	3.3%	5.0%	4.5%	1.6%	-0.5%	3.0%	△	基本金組入前当年度収支差額がマイナスとなり比率が大幅に低下した。
	経常収支差額比率	$\frac{\text{経常収支差額}}{\text{経常収入}}$	2.1%	-0.8%	2.5%	1.4%	0.2%	3.0%	△	経営の健全性指標。経常収支差額の減少により、比率が大幅に低下し、平均値も下回った。
	教育活動収支差額比率	$\frac{\text{教育活動収支差額}}{\text{教育活動収入計}}$	2.6%	-0.5%	2.7%	1.6%	0.4%	1.7%	△	教育活動本来の収支バランス。収支差額の減少により比率が大幅に低下した。
	減価償却額比率	$\frac{\text{減価償却額}}{\text{経常支出}}$	6.6%	6.8%	6.8%	7.3%	7.4%	9.2%	△	施設設備により減価償却額が増加し、比率が上昇した。平均値より低い。
収入の構成は どうなっているか	学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{経常収入}}$	64.0%	61.6%	60.5%	61.9%	59.6%	39.6%	△	納付金が減少し前年度より比率は低下した。今後とも安定した学生生徒の確保が必要。
	寄付金比率	$\frac{\text{寄付金}}{\text{事業活動収入}}$	1.5%	3.9%	1.2%	0.8%	0.4%	1.4%	△	寄付金額の減少により比率は低下。平均値も下回った。今後外部資金獲得の対策が必要。
	補助金比率	$\frac{\text{補助金}}{\text{事業活動収入}}$	28.8%	30.7%	32.4%	31.6%	31.4%	10.3%	△	若干の比率の低下に留まる。平均値より高い。
支出の構成は 適切であるか	人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{経常収入}}$	66.6%	63.3%	66.5%	66.7%	68.5%	48.9%	▼	人件費全体が年々上昇。それに伴い比率も上昇。平均値より高い。
	人件費依存率	$\frac{\text{人件費}}{\text{学生生徒等納付金}}$	104.1%	102.7%	110.1%	107.7%	114.9%	123.6%	▼	比率は平均値より低いが、人件費が学生生徒納付金を上回っている。
	教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{経常収入}}$	22.6%	28.5%	21.6%	22.3%	21.9%	40.6%	△	教育研究活動の維持・発展を支える。比率は低下。平均値に比べてもかなり低い。
	管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{経常収入}}$	8.2%	8.6%	9.1%	9.3%	9.2%	7.1%	▼	一定の経費支出はやむを得ない。前年と同率。平均値より高い。

※「平均値」は、全国の同規模大学法人数値（2018年度 私学事業団まとめ）

※運用資産＝現金預金＋特定資産＋有価証券

※要積立額＝減価償却累計額＋退職給与引当金＋2号基本金＋3号基本金

## 2 その他

### (1) 有価証券の状況

区分	銘柄	帳簿価額	表示科目
株式	キリスト新聞社	5万円	有価証券

### (2) 借入金の状況

借入先	借入残高	利率	担保等
公的金融機関	833万円	1.8%	あり
市中銀行・信用金庫	3億3,804万円	0.33~2.4%	あり

(3) 学校債の状況 学校債は、発行していません。

### (4) その他

#### ① 寄付金の状況

寄付金の種類	寄付者	金額	摘要
新入生寄付金	保護者	81万円	
一般寄付金	保護者	96万円	卒業(園)記念寄付金
	保護者、企業、教職員	367万円	行事等教育活動支援
特別寄付金	保護者、団体、教職員	40万円	熊本地震復興支援義援金
	企業	332万円	教育活動支援等
	団体	4万円	パイプオルガン維持寄付金
	保護者、旧教職員	203万円	学院施設設備寄付
	卒業生、教職員	178万円	トイレ整備寄付
団体	6万円	阿蘇山荘支援寄付金	

全体で1,310万円の寄付金をいただきました。その内訳は上の表のとおりです。寄付者の皆様には、心から感謝申し上げます。

#### ② 収益事業の状況

収益事業は、行っていません。

#### ③ 関連当事者との取引

関連当事者との取引はありませんでした。

## IV 付録 学校法人会計について

2015（平成27）年度から、学校法人会計基準が大幅に改正されました。

改正の趣旨は、情報の公開と説明責任の観点から、より一般に解りやすく、また学校法人の適切な経営判断に資するために行われたものです。

本学院の会計も、2015（平成27）年度からこの「新学校法人会計基準」に基づき、以下の計算書類を作成しております。これらについて、本学院の仕訳方法を踏まえてご説明致します。

**資金収支計算書** とは・・・

毎会計年度、当該会計年度の、学院の諸活動に対応するすべての収入及び支出の内容、並びに、当該会計年度における支払資金（現金及びいつでも引き出すことができる預貯金）の収入及び支出のてん末を明らかにするものです。

資金収支計算書は、単純に4月から翌年3月までの資金の収支をまとめるものではありません。学校の活動は学年ごとに繰り返されるので、資金の収支も年度ごとに把握できるように、調整勘定を設けて調整します。

主な科目の内容は、以下の通りです。

【学生生徒納付金収入】	授業料収入、入学金収入、施設費収入等の納付金
【手数料収入】	入学検定料収入、中高の進路模試の試験料、大学の各種検定試験料、在学・卒業等の証明手数料等
【寄付金収入】	寄付者が使途を指定した特別寄付金と、指定のない一般寄付金。
【補助金収入】	経常費、施設整備等のすべての補助金。こども園の施設型給付費も含まれます。
【資産運用収入】	受取利息収入と、学内施設等の施設設備利用料収入。
【付随事業・収益事業収入】	中高の寮活動並びにこども園のスクールバス利用等を計上する補助活動収入や、大学で行う公開講座、更新講習等の収入、韓国提携大学の学生を受け入れる受託事業収入、ジャニスのカウンセリング料収入等。学院では、すべて教育に付随する「付随事業」としてしています。
【受取利息・配当金収入】	特定資産の運用収入や預金利息、配当金等。後述の区分経理の為、独立した科目。
【雑収入】	退職金団体交付金収入や、大学のボランティア体験の体験学習収入、大学科研費の間接経費収入等。
【前受金収入】	前年度の3月までに受け入れた収入で、当年度になって入学金や施設充実費に振替えられる、資金収支計算書特有の科目です。
【その他の収入】	預り金受入収入や仮払金回収収入など、短期的に精算される収入で、雑収入と違い、消費収支計算書に影響しません。

<b>【資金収入調整勘定】</b>	収入として計上したが未収となっている期末未収入金や、前受金として前年度までに受け入れた収入を、当年度に本来の科目に計上した前期末前受金等を調整する科目で、マイナス表示します。
<b>【教育研究経費支出及び管理経費支出】</b>	経費支出は、教育活動及び研究に用いるものを「教育研究経費」、それ以外を「管理経費」に分けています。
<b>【施設関係支出】</b>	土地支出、建物支出、構築物支出、建設仮勘定支出、施設利用権。
<b>【設備関係支出】</b>	教育研究用機器備品や管理用機器備品、図書、車両等。
<b>【資産運用支出】</b>	特定資産への繰入支出や有価証券購入支出等。
<b>【その他の支出】</b>	資産に計上する支出で、前払金支払支出や仮払金支払支出、また、負債の支払いとして前期末未払金支払支出や預り金支払支出等。
<b>【資金支出調整勘定】</b>	支出として計上したが未払いとなる期末未払金や、前年度までに支払っている経費を当年度に本来の科目に計上した前期末前払金等を調整する為の科目で、マイナス表示されます。

**活動区分資金収支計算書** とは

「資金収支計算書」を『教育活動』『施設設備等活動』『その他の活動』の3つに区分して組み替え、現預金の流れを表した計算書類です。企業会計で言うキャッシュフロー計算書に相当し、これにより、活動ごとの資金の流れが分かるようになります。学校法人全体を対象に作成し、部門ごとの明細は作りません。この計算書は、文科省管轄法人にだけ作成が義務付けられています。

**事業活動収支計算書** とは・・・（従来の「消費収支計算書」）

当該会計年度の学院の諸活動に対応する事業活動収入および事業活動支出の内容及び基本金組入後の均衡の状態を明らかにするものです。企業会計の損益計算書に相当しますが、学校法人は営利を目的とせず、教育事業を行うことが目的なので、「事業活動収支計算書」と呼びます。この計算書は、「教育活動収支」、「教育活動外収支」及び「特別収支」に区分されています。

- 教育活動収支は、学校法人の本来の活動にかかる経常的な収支です。
- 教育活動外収支は、資金調達や資金運用など、財務活動の収支です。
- 特別収支は、施設設備のための寄付金や補助金など臨時的な収支です。

また、基本金組入前の収支状況（「基本金組入前当年度収支差額」）を表示することによって、短期・長期の両方の収支バランスが見た目で分かるようになりました。

科目の多くは「資金収支計算書」と同じですが、「事業活動収支計算書」だけにみられる主な科目は以下の通りです。

<b>【現物寄付】</b>	資金の受入れがないので、事業活動収支上にしか反映されません。
<b>【退職給与引当金繰入額】</b>	実際の退職金支払いに先立って、予め毎年度に負担額を事業活動支出として計上することが、事業活動収支の均衡を維持するうえで必要とされるものです。

大学の場合、期末要支給額を基にして、私立大学退職金財団に対する掛金の累計額と、交付金の累計額との組入調整額を加減した金額を全額計上します。

大学以外の教職員に係る退職給与引当金については、期末要支給額から、各退職金団体からの交付金相当額を控除した金額（学校負担額）を全額計上します。

**【減価償却額】**

固定資産のうち建物・構築物・機器備品などは、時の経過により価値が減少するものとして減価償却を行い、取得原価を毎年度の事業活動支出に費用配分しています。学校法人会計基準では、すべて定額償却です。

**【資産処分差額】**

不動産などを売却し、その代価が帳簿残高を下回った場合、その差額を計上。また建物・構築物などの取壊しや、使用不能になった機器備品を除却処分した場合、処分時点の帳簿残高を計上します。

**【過年度修正収入・支出】**

前年度以前に計上した収入または支出の修正額で、当年度の収入あるいは支出となるものを計上します。

**【基本金組入額】**

事業活動収入から組入れた金額で、下表のように第1号基本金から第4号基本金までがあります。このうち、第2号から第4号基本金は、理事会で組入れの議決をした金額ですが、第1号基本金は当該年度における施設・設備の取得額から除脚額を引いた金額が計上されます。学校法人会計においては、基本金組入れ後の収入（事業活動収入）と事業活動支出とが均衡することが望ましいとされています。

第1号基本金	施設（土地、建物等）・設備（機器備品、図書等）の取得額、及びその取得のために借り入れた資金の返済額を組入額として計上
第2号基本金	計画に基づき先行組み入れた金銭等の額
第3号基本金	周年記念奨学基金等として継続的に保持・運用するために組み入れた金銭等の額
第4号基本金	必要な運転資金を常時保持するため、恒常的に保持すべき資金として基本金に組み入れる額

※基本金と資本金：「基本金」とは、企業会計の資本金とは異なり、学校法人会計独自の計算構造で、学校法人がその諸活動の計画に基づき、必要な資産を継続的に保持するために、事業活動収入から組み入れた金額です。

**貸借対照表** とは・・・

会計年度末における学校法人の財政状態（ストック）を表したものです。教育研究に必要な財産を適正かつ安全に保持しているかどうかの財政状態を確認します。

**【固定資産】**

耐用年数が2年以上の有形固定資産（土地・施設・設備・図書等）と、保有期間が1年を超えると見込まれる有価証券、債権などの資産のこと。後者のうち特別な目的に引き当てられた資産を、特定資産と言います。

- 【流動資産】 現金預金・未収入金・前払金・仮払金等。
- 【固定負債】 長期借入金・退職給与引当金等。「退職給与引当金」は、教職員に将来退職金として支払うべき退職金を、負債として認識するもの。中高・こども園と大学とでは引当金の計算方法が違っている為、それぞれに計算して計上しています。
- 【流動負債】 短期借入金・未払金・前受金・預り金・仮受金等。
- 【純資産】 基本金と繰越収支差額。保有する資産のうち、この部分が自己資本となるので、純資産と言います。

		資産の部	負債の部
大科目	→	<b>固定資産</b>	<b>固定負債</b>
		有形固定資産	長期借入金
		土地	退職給与引当金
		：	長期未払金
中科目	→	特定資産	・・・
		第〇号引当特定資産	<b>流動負債</b>
		：	短期借入金
		：	未払金、前受金・・・
小科目	→	その他の固定資産	負債の部 合計
		借地権	<b>純資産の部</b>
		出資金	<b>基本金</b>
		ソフトウェア	第1号基本金
		：	第2号基本金
		<b>流動資産</b>	第3号基本金
		現金預金	第4号基本金
		未収入金	
		：	<b>繰越収支差額</b>
			翌年度繰越収支差額
		資産の部 合計	純資産の部 合計
			負債及び純資産の部合計

[ 運用形態 ]

[ 調達源泉 ]